

米・「韓」・日の三角軍事同盟と「ぬるま湯の蛙」

4月15日、その数日前正式に朝鮮労働党と朝鮮民主主義人民共和国のトップに就任した金正恩朝鮮人民軍最高司令官は、金日成主席生誕100周年を祝う閲兵式で、金日成・金正日時代の100年史を誇り高く総括し、みずからをニュー・リーダーとする朝鮮の雄大な国家ビジョンと戦略を明らかにした。その模様は、日本をはじめとする世界各国にリアルタイムで放映され大センセーションを巻き起こした。現地入りした外国メディアの取材陣の中には、金正恩第一書記のカリスマ性、活気あふれる朝鮮の人々や街並み、経済発展ぶりを目の当たりにし、思わず「制裁は何の効果も生んでいない」と漏らす記者が少なくなかったという。御用化したマスメディアによる朝鮮関連情報のねつ造や歪曲によって偏見が定着してしまった日本にとって、朝鮮ほど「百聞は一見に如かず」の諺が当てはまる国はないかもしれない。しかし、その一方で米国と南朝鮮、日本は相変わらずの「北朝鮮脅威」に基づいて三角軍事同盟の構築を着々と進めている。6月14日にワシントンで行われた「米・韓外交防衛会議(2+2)」では異例にも「米・韓・日の安保協力体制強化の必要性」が強調された。その後21～22日には南朝鮮の済州島周辺海域で、歴史上初めて米・「韓」・日3カ国による合同海上軍事訓練が行われた。また29日に南朝鮮と日本は、両国の軍事協力を制度化する軍事情報保護協定に議会に諮ることなく抜き打ちで調印しようとした。それはさすがに南朝鮮の与野党や各界各層の猛反発に合い延期を余儀なくされた。しかし日本では批判の声すら上がらない。自民党化する現民主党政権下で日本国民は「ぬるま湯の蛙」になってしまったのだろうか。

目次

徐々にはっきりしてきた金正恩の統治スタイル	1
ペク・ハクスン 世宗研究所首席研究員	
北朝鮮「核実験」を予想した人々は何と言うだろうか?	2
ソ・ジェジョン 米ジョージア・ポンピュクス大学教授	
朝鮮戦争終結こそが東アジアを平和にする	4
成田俊一 フリージャーナリスト	
米・日にもてあそばされる李明博の終北ロードマップ	6
チョン・ウクシク 平和ネットワーク代表	
北朝鮮で仏教の心を掘り起こす	8
池口恵観 真言宗大僧正・最福寺法主	
北朝鮮の人工衛星打ち上げとミサイル防衛システムの失敗	10
田窪雅文 ウェブサイト「核情報」主宰	
★ トピックス :	
◆ 朝鮮学園支援、全国ネットワーク始動へ (朝鮮新報 5. 23)	12
◆ 変化する北朝鮮、国交交渉にむけ通路築け (朝日新聞 5. 26)	12
◆ 北朝鮮は新興市場 (北日本新聞 5. 31)	13
◆ 「慰安婦の碑」米で波紋 (西日本新聞掲載 6. 7)	14
★ ドキュメント :	
◇ 朝鮮民主主義人民共和国政府の声明・談話・論評	15
◇ 朝鮮半島日誌 (2011. 4. 11 ~ 2012. 6. 29)	33

徐々にはっきりしてきた金正恩の統治スタイル

ペク・ハクスン 世宗研究所首席研究員

明日新聞 2012年5月25日

金正恩朝鮮労働党第1書記が北朝鮮の最高指導者になってからすでに5ヶ月が過ぎた。彼は領袖政治体制下で計画された過程を通じて、一糸不乱に最高指導者の地位に登りつめ、権力の安定性を確保した。そしてそれを土台に自身の新しいリーダーシップのスタイルをはっきり見せている。

彼のスタイルは金正日よりは祖父の金日成に近いが、これは北朝鮮住民たちにとって「良い時期」だった金日成時代を想起させながら希望を持たせているという噂だ。

金正恩は最近どんな新しい統治スタイルを見せているか？その新しい統治スタイルが果たして新しい政策につながるだろうか？わが政府は金正恩にどう対処しなければならないのだろうか？

金正恩が見せている新しいリーダーシップのスタイルはすでに内外政策、そして現地指導などでますます特徴的に表れている。その特徴はリ・ジョンソク前統一部長官の表現のように「公開性」と「透明性」だ。

まず国内部門を見ると、金正恩は特に経済部門で「人民生活向上」に全力を注ぎながら住民たちの「心をつかむ」政治を本格化している。報道によると今年1月下旬、彼は党幹部らに「資本主義的方式の導入を含む経済改革議論を促し」ながらタブーのない議論を通じて「中国、ロシアや日本の方法でも」北朝鮮に合う経済再建策を捜し出すように指示した。

彼は経済部門において「新世紀の産業革命」と「咸南(ハムナム)の炎」を強調しながら情報技術(IT)を利用した生産性向上を強調している。また、最近では市場で商売できる年齢を40代に下げて、平壤所在の市場で営業時間制限を廃止し、農産物と工産品など種類によって市場税を合理的に差別化する措置を取った。そして学校での各種雑費を廃止した。

【祖父である金日成時代を彷彿させる】一方、4月15日に行われた金日成誕生100周年閲兵式で彼は何と20分余り公開演説を行った。5月9日の万景台遊園地に対する現地指導では、管理不良を厳しく指摘し、それがそのまま朝鮮中央テレビに放映された。これらすべては過去には想像すらできなかったことである。

そして養豚農場の現地指導では展示行政をしないように指示したという。また、兵士たち、従業員らと共に腕組みして写真を撮り、閲兵式ではそばに立っている幹部らと話をしながら微笑む姿をしばしば見せたし、天気の良い暑い時には人民服のボタンを全部ほどいて現地指導する姿も見せた。これらもすべてそのままテレビ放映された。

外交部門はどうか？金正恩は米国と2.29合意を成立させたが、4月には金日成誕生100周年の慶祝と父親である金正日の遺訓を実行する次元で人工衛星ロケット打ち上げを押し切った。しかし、それが失敗するとすぐに「慶祝期間中には失敗を隠そう」という党幹部らの建議にもかかわらず、失敗をすぐに認めた。5月初めには北朝鮮を訪問した日本人記者に平壤での自由な取材を許した。そして数日前の5月22日に北朝鮮は「私たちが2.29朝米合意から拘束されることはなくなったが実際の行動は自制しているということ」を数週間前に(米国に)通知したし、「本来、われわれは初めから平和的な科学技術衛星打ち上げを計画していたので核実験のような軍事的措置は予定したことはない」とした。4月中旬のロケット発射以後、北朝鮮の核実験に対する憂慮の増幅などで朝鮮半島の緊張が高まっていたが、緊張を緩和する立場を取ったのである。米国もこれに呼応して対北朝鮮政策特別代表グリーン・デービス一行が今週に韓国、中国、日本を歴訪しながら朝鮮半島の緊張緩和方案を協議

した。

【「若い後継者」から「能力ある指導者」に】 それでは、私たちは新しい統治スタイルと新しい内外政策の一端を徐々に見せている北朝鮮の新しい指導者である金正恩にどう対処するべきか？ 今、金正恩は多くの北朝鮮住民たちの間で人気を得ており、彼らは金正恩をこれ以上「幼くて経験がない」後継者でなく「若くて能力ある指導者」として見直しているという。

現実的に北朝鮮の最高権力者になった金正恩を対話と協商のパートナーとして認め、彼が改革開放と対外協力を通じて核とミサイルなど朝鮮半島の問題を解決する方向に進むよう積極的に手伝う必要がある。結局これが現状における「WIN-WIN」の道である。

北朝鮮「核実験」を予想した人々は何と云うだろうか？ 3回目の核実験説の逆説

ソ・ジェジョン 米ジョーンズ・ホプキンス大学教授

「プレシアン」 2012年5月29日

北が今すぐにでも核実験を行うと叫んだ人々が、いま何と云うか知りたい。3回目の核実験を既定事実化したり、はなはだしくはそれを希望し胸の中で「これを機会に…」を繰り返していた彼らは、いまどのような対策を立てているのだろうか？

世の中の憶測にもかかわらず静かだった北は、外務省スポークスマンが記者に対して回答するという形式で、5月22日に「核実験のような軍事的措置を予定したことはなかった」という公式的立場を明らかにした。もちろん、「敵視政策が続く限り核抑止力は一瞬たりとも止めることなしに拡大強化するであろう」とし、「自衛の見地から対抗措置を取らざるをえなくなるであろう」という既存の立場を繰り返した。だが、新しく確認された事実は、核実験を「予定」していなかったという点だ。

【北は何故いまだに核実験をしないのか？】 まず、実際にする必要がない。核実験は核兵器をつかってその機能を確認するために行うという当然の事実を多くの「専門家」たちは忘れたかのごとく発言する。北はすでに二度核実験をおこない、成功し核抑止力を保有していると主張している。この主張が事実なら3回目の核実験は必要ないということではないだろうか。

核実験に成功したという北の主張が偽りだという主張が一部にある。実験の大きさがその他の実験に比べて小さかったということが根拠になっている。北が大型実験を試みたのか、小型実験をしたのかを看過しているとんでもない主張だ。

北の成功主張が偽りならば3回目の核実験を行うことはできない。核実験を行う瞬間、以前の実験に欠陥部分があったということを行動で立証することになるからだ。

北は米国の敵視政策が続く限り核抑止力を「拡大強化」といつている。ところで、核実験をすればするほど抑止力は縮小される。確保しておいたプルトニウムの量は限られており、新しいプルトニウムを生産できない状態で実験だけをすれば、残っているプルトニウムが減ってしまうのではないか。多くて核弾頭8個分のプルトニウムなのに、減らすことは「拡大」に反する愚かな行為である。

北がそれほど愚かではないとみる専門家たちは、ウラニウム爆弾の実験の可能性について語る。しかし、それは一つだけを知って二つは知らないという話だ。ウラニウム爆弾は実験が必要ない。高濃縮ウラニウムだけ十分に確保されれば、それを爆発させるのはあまりにも

容易だからだ。米国はすでに半世紀前の 1945 年、ウラニウム爆弾を実験せずに広島に投下した。核テロを憂慮する専門家たちがウラニウム爆弾を憂慮する理由もここにある。

実験が必要ないにかかわらず、もし北がウラニウム爆弾を実験するならば、自分の足の甲を踏む格好になってしまう。いま寧辺で稼働中のウラニウム濃縮施設と建設中の軽水炉の存在根拠を自ら破壊することになるからだ。すなわち、この施設が原子力発電用という主張を自らの行動で否定することになるからだ。「遺訓」事業という軽水炉建設に決定的な障害をもたらすことにもなる、このような行動をするほど北の思想体系が柔軟だという証拠を探すのは難しい。

それでは、核抑止力の「強化」のために実験しないのだろうか？ この可能性を排除することはできない。核爆発の収率を高める装置と物質を開発・生産しているかは確認できないが、北は手をこまねいているだけではないだろう。だが、そうだとしても、あえて核爆発実験まで行く必要はない。「部品試験」だけでも出来ることは多い。このような「強化」作業をしているならば、既存の「抑止力」が挑戦を受ける時点で核実験をもう一度行うのが効果的であろう。非対称的であるが、まだ朝鮮半島では「恐怖の均衡」が崩れたと見ることはできないからだ。

【それでは、3 回目の核実験を行うだけの政治的理由があるのだろうか？】 ある者は「ミサイル発射実験」に失敗したので、北が名誉挽回のために核実験をおこなうと推論する。ミサイル発射に失敗したら、再びミサイルを発射し成功させてこそ失墜した名誉が回復されるのであって、関係のない核実験を行ってどうして名誉回復が出来るのだろうか。北では朝鮮宇宙空間技術委員会が人工衛星打ち上げに失敗したが、戦略ロケット司令部が核実験を成功裏に行えば、宇宙空間技術委員会の名誉が回復するのか、それともさらに恥じをかくのか？ 朝鮮宇宙空間技術委員会は、再び人工衛星打ち上げを試み成功させることによって名誉を回復しようとするだろう。すでにそう公言している。

ある者は、合意→違反→挑発という核実験の「公式」を語る。2006 年と 2009 年に 2 度、そのような経路で行動したがゆえに、今回も 2.29 合意→ミサイル発射実験(違反) → 核実験(挑発)の経路をたどるといふものだ。

重要な問題はこのような公式が核心的な因果関係を排除しているということだ。北が核実験を行った時は、二回とも北の立場からは、自身の死活的利害が脅威にさらされていると言えるだけのことがあったし、その対応こそが核実験を通じた抑止力の誇示であったのだ。すなわち 2006 年には 9.19 合意にたどり着いた途端、米国側が BDA 金融制裁という措置を取ってこの合意をひっくり返して北の後頭部を引っ叩き、それに続きミサイル発射に対する国連の制裁措置が取られたので、そのような対応に出たのだ。2009 年の時は、北が人工衛星を打ち上げた後、国連安全保障理事会が「北朝鮮の 2009 年 4 月 5 日(現地時間)の発射を糾弾する」という議長声明を発表して安保理決議 1718 号に伴う制裁措置の履行に入ったからである。人工衛星打ち上げが歴史上初めて国連の制裁を受けたので、すぐに強く対応したのだった。

一見、2012 年に北が以前より強く反発しなければならぬように見えるかもしれない。すなわち国連安全保障理事会が北の打ち上げを「強く糾弾する」として以前の表現より強力な議長声明を発表し、制裁措置も非常に具体的だ。

しかし、この議長声明は第 2 項で「今回の衛星打ち上げ」と認めることによって、北の主張を公式に受け入れたという点で以前とは明確な違いがある。また、制裁措置が具体的であるとしても、既存の措置と大きく変わらない点も重要だ。

すなわち、このような両面性を見ると、2012 年の議長声明は国連安全保障理事会と北朝鮮両者のメンツを立てる妥協的な性格が濃厚だ。北と国連、そして米国は互いに取らざるを得ない措置を取りながらも、状況が統制不能になるまで悪化するのを防ぐ相互管理の態度を

取っていたのである。

北はすでに3月、リ・ヨンホ外務省副相を米国で開かれた民間会議に派遣し「私たちの新しい指導者は以前の世代とは異なり、米国との対決を望んでいません」というメッセージを伝えた。2.29 合意では、米国が北を「これ以上敵視しない」ということを確認し朝米関係改善に合意する代わりに、米国が願う措置を多く受け入れた。すなわち、「核試験と長距離ミサイル発射、寧辺でのウラニウム濃縮活動を臨時停止し、ウラニウム濃縮活動の臨時停止に対する国際原子力機構（IAEA）の監視を許容」したのだ。米国が取ることになっている具体的な措置は人的交流と栄養（食糧）支援にすぎないという事実にも照らしてみても、対米関係改善のために北が以前の「行動対行動」の原則においても多く譲歩したことを示唆している。

また、国連安全保障理事会の議長声明に反発して2.29 合意に「これ以上拘束されない」と宣言したが、「実際の行動では自制している」だけでなく、このことを米国側に「数週間前に通知」までし、それを22日に公表した。

人工衛星打ち上げは国内的な必要性によって押し切るほかなかったが、対外的には関係改善を望むという一貫したメッセージが垣間見られる。

結論的に北には3回目の核実験を行う実質的な理由や政治的な動機もないということだ。近い将来、核実験を行うという予測はすでに外れたし、少なくとも当面、頭をもたげにくいだろう。

まず、朝中間にすでに合意が形成されていると見る事が出来るからだ。キム・ヨンイル朝鮮労働党中央国際担当書記兼国際部長が4月21～24日に訪中し王家瑞中国共産党対外連絡部長のみならず戴秉国国务委員と胡錦濤主席まで会ったが、これは両国間に合意がなければありえないことだ。

米国も対話に復帰する兆しを見せている。グリーン・デービス特使は23日に北京で中国政府高官たちとの会談後、「北朝鮮が約束を守るという信頼感が醸成されるなら栄養（食糧）支援をしたい」と述べ、対話再開の可能性を示唆した。

「3回目の核実験」論者が敷いたゴザである。北がすぐにでも核実験を行うと大騒ぎしただけに、それは北が核実験をしなければ「信頼感」醸成に寄与することになるだろう。北は「信頼感醸成」のために何もしなければよいのである。「北が核実験さえすればそれを機会に…」と意気込んだ論者が逆説的に対話のゴザを敷いた格好になった。これから彼らは何と言うだろうか？

[朝鮮現地取材報告]

朝鮮戦争の終結こそが東アジアを平和にする

成田俊一 フリージャーナリスト

「週刊金曜日」 2012年6月15日

「政府に確認したところ、キムヘギョンさんは平壤市内で幸せな家庭生活を送っています…。」

5月17日、平壤市内にあるポトンガンホテルの一室で朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）外務省傘下の朝鮮対外文化連絡協会（対文協）日本局の黄虎男局長は語った。筆者は、金日成主席生誕100周年の祝賀イベントも終わった5月10日から19日まで現地に滞在、金正日総書記亡きあとの金正恩体制に入った北朝鮮を取材した。

現地取材に入るひと月ほど前に、横田めぐみさんの両親の滋さん(79歳)と早紀江さん(76歳)に会い、拉致問題について話を伺った。その席で早紀江さんが「(めぐみさんの娘)ヘギョンちゃんが結婚したという情報を聞いているのですが本当かどうかははっきりしない」と語っていたことから、平壤に到着した日に、その確認を対文協に頼んだ。黄局長の説明によれば、金日成総合大学のコンピュータ学科で学んだヘギョンさん(25歳)は同大学の一年先輩の男性と結婚して、今は市内のオフィスで働きながら「幸せな家庭生活」を過ごしている、という。

【武力には武力で】めぐみさんが13歳で拉致されてからすでに35年が流れた。2008年8月の日朝政府間交渉は、拉致の再調査と経済制裁の一部解除で合意したが、時の麻生政権はこの合意を無視し制裁強化に走った。以後、現在まで日本政府は「拉致の解決なくして国交正常化はない」という立場に固執、その解決の糸口さえつかめないのが現状だ。早紀江さんは「北朝鮮は難しい国だが拉致事件が解決しないのは北朝鮮だけの問題なのかわからなくなってきた。日本国内にも拉致問題の解決を遅らせようとするような問題があるのではないでしょうか…」と極めて重要な指摘もしている。

昨年12月17日に金正日総書記が死去した時、複数の週刊誌から「大量の脱北者が出る可能性は？北朝鮮の崩壊が始まるのでは？」といった質問が相次いだ。そのすべてに「何も起きない、むしろ結束する」と筆者は完全否定した。今に始まったことではないが、米韓の情報機関やエセ専門家や脱北者からの情報に依存した日本の北朝鮮報道などは、初めから限界がある。大手マスコミでさえ嘘もデマも平気で伝える。

いま北朝鮮は何を考えているのか。洪善玉・最高人民会議副議長は北朝鮮の今を「米国がどんなに制裁をかけてきてもまったく揺るがないし、さらに国を発展させる自信もある」と端的に答えた。この自信は、北朝鮮がすでに核武装に成功していることと無関係ではないだろう。暗礁に乗り上げた六カ国協議は北の核に圧力をかけられなかったし、さらに南北が軍事衝突した二年前の延坪島砲撃事件でも北朝鮮は「戦争には戦争」と躊躇しない姿勢を鮮明にした。こうした自信の由来は、北朝鮮が国防上の自信を持ったということの意味する。

「天安艦沈没事件」で明確にしておくべき事柄がある。米・「韓」は、北朝鮮の仕業だとする調査報告書を国連安保理に提出したが、ロシアはその証拠には疑念があるとして拒否。米・「韓」演習中の事故を北朝鮮攻撃説にすり替えたという情報もある。この話は米国がウソの大量破壊兵器写真を証拠にして、イラク戦争を仕掛けたことによく似ている。

朝鮮対外文化連絡協会日本局の李河進課長は米国を警戒する北朝鮮の捉え方を「過去、米国という国は計画立案した軍事プランは必ず実行している。イラク戦争を引き起こしたように北朝鮮のミサイルが米国本土に攻撃を仕掛けてくる証拠があるとか何とか言って、捏造証拠を出して、先制攻撃を仕掛けてくる危険性は非常に高い。わが人民軍は、なかでも米軍がわが国で不測の事態が起きた場合を想定した正式な先制攻撃計画『8022-02~05作戦』には最大級の警戒態勢をひいている」のだと説明した。米国のこの作戦は、北朝鮮攻撃に核兵器使用も念頭にしているという。先月、「韓国」国防部が北朝鮮の脅威に対応するためにミサイル戦力の大幅増強計画を公表しているのも、この作戦と無縁ではない。

【瀬戸際外交の終焉へ】米・「韓」の軍事力に北朝鮮は核武装で対抗しようとしている、その理由もまた明快だ。日本の属国に泣いた植民地時代からの歴史的教訓と米国に屈しなかった朝鮮戦争の教訓からである。民族自決権、自分の国の行く末は自分の国が決める、他国の干渉や介入を許さないためには軍事力を持つ以外に途がないという、あまりにも明確な選択に、この国は躊躇なく突き進んだ。北朝鮮にとって敵は今も米国である。59年前の休戦協定で朝鮮半島は南北に分断、その後は朝鮮民族同士の血みどろの悲劇を生んだ。板門店の軍人は「同じ民族同士が銃口を向け合っているのは世界でもここだけです」と語っている。

平壤滞在中のある早朝、ポトンガンホテルの近くをジョギングする人々に遭遇した。今ま

で六回取材に来ているが市民がジョギングしている光景を目にしたのは初めてだった。一瞬、平和ではないかと感じたが、しかしこの日も朝鮮半島上空では米韓空軍が 50 機を動員し実戦を想定した訓練をしていた。4 月に北朝鮮人民軍が発表した特別作戦行動部隊小組は、この日も米・「韓」の訓練を挑発と見てサイバー監視しているにちがいがなかった。補足するが、ときどき米国が北朝鮮の軍事施設を偵察衛星で定点監視しているといったニュースが流れるが、地下深くにある北朝鮮のミサイル施設の全容などはまったく把握されていない。

ところで、金正日総書記を後継した金正恩国防委員会第一委委員長(ほかの肩書に、党第一書記、人民軍最高司令官)はどのような哲学の持ち主か。それを知るのも今回の取材目的だった。

後継した若きリーダーは就任早々、国土の再開発計画を重点政策として発表(5 月 9 日付「朝鮮中央通信」)している。この国土開発計画は、河川、沿岸、道路などの再整備、自然環境保護、大気汚染防止、火力発電の増設計画など国全体のインフラ計画に着手するという内容だ。「強盛大国」計画の一つ、平壤市内の 10 万戸住宅建設計画の達成率は現在 70%ほどという。市内は見違えるほど近代化してきた。金正恩第一委員長が側近幹部に話したという重要な情報を紹介する。第一委員長は「もう軍事、国防力を全面に繰り広げる必要はない。具体的な平和をつくる時代に入っている…」と明言しているというのである。前述した国防上の自信と平和志向とも言えるこの情報を突き合わせてみるとこれからの北朝鮮の方向が見えるというものだ。

「韓国」は米国の軍事力に組み込まれたが北朝鮮は建国以来、一貫して今も対峙している。朝鮮半島に潜む脅威というのは、実は米国軍事的支配主義が最大の脅威なのであって、その米国にとって北朝鮮脅威論は、煽れば煽るほど都合がいいトリックになる。しかしだからといって、さらなる北朝鮮の核武装も是認できない。59 年も続く休戦という敵対関係は一日も早く終焉させなければならない。それは朝鮮戦争に関わった 16 の国家に求められる責任でもある。対文協の黄局長と日本の拉致問題を語り合った。その結果「日本には本当に責任をもって堂々と話し合いを重ねる政治家はいるんですか?」と逆質問された。

米・日にもてあそばされる李明博の「終北」ロードマップ 日本のイージス艦の西海配備と三角同盟

鄭旭湜 (チョン・ウクシク) 平和ネットワーク代表

「プレシアン」 2012 年 6 月 5 日

日本が北朝鮮のミサイルに備える名目で朝鮮西海にイージス艦を配置する方案を検討している中、大統領府の高位関係者が「日本のイージス艦の西海配置に反対しない」と述べ、物議を醸している。

6 月 4 日付「朝鮮日報」によれば、この関係者は「西海の公海上で『航海の自由』が完全に保障されることが、わが国の安保利益にもっとも適する」とし、「北朝鮮の急変事態が広がれば西海にもっとも多く出入りする船は米国の軍艦である」と語った。

「朝鮮日報」は「有事の際、日本のイージス艦の西海配備を問題にしないことにしたのは朝鮮半島急変事態の際、西海を統制しようとする中国の試みを無力化させ、韓・米の軍艦の西海での活動の機会を最大限確保しようとする戦略的判断が含まれている」と分析した。

このように李明博政権の一角で、日本のイージス艦が西海に進出することに事実上賛成する立場を見せているのは、相変らず危険千万で非現実的な「吸収統一」の野望を持ち続けて

いるためだ。米国は「北朝鮮急変事態発生→韓・米連合軍投入→吸収統一達成」という MB(李明博)の「終北」ロードマップで「日本の役割」を強調したことがあったが、MB 政府は韓・日軍事協力推進及び日本のイージス艦の西海進出を容認することでそれに迎合しているわけだ。

最近 MB 政府関係者が「軍事秘密保護協定と軍需支援協定など韓・日軍事協定を現政権任期内に終える方針」で「野党の反対があるのでタイミングを見計らっているが、近い将来、協定に署名するだろう」と話したことはこのような分析を後押ししている。当初 MB 政府は先月キム・グァンジン国防長官を日本に送って署名を終える予定だった。しかし野党と市民団体、国民の反発で保留することにした。

しかし、論理的に韓・日軍事協定締結と日本のイージス艦の西海配備は互いにつながっている。大統領府高位関係者が「朝鮮日報」を通じて「日本は私たちより二倍のイージス艦を保有している」としながら「これらが西海で得る対北情報は私たちにも大いに役に立つ」と語ったのも、その延長線上から出たものだ。

【MB と米・日同盟の同床異夢】 注目は、MB 政府と米・日同盟間の同床異夢だ。MB 政府もやはり「中国牽制論」を抱いているが、韓・米戦略同盟と韓・日軍事協力を推進してきたことには吸収統一に対する強い執着が土台にある。これに反し米国と日本は MB の吸収統一論を活用して事実上の韓・米・日三角同盟構築を通じて中国牽制および封鎖に出ようと思っている。

三角同盟は米・日戦略家たちの長い間の念願だったが、歴史と独島(竹島)問題などで思うように進まなかった。このような状況で米・日同盟は大統領の実兄の李相得(韓日議員連盟会長)が「骨の髄まで親米・親日」と言った李明博政権の発足をまたとない機会と捉えていた。

ウィキリークスが暴露した外交文書によれば、米・日首脳は MB 政権発足を韓・日軍事協力強化による韓・米・日軍事ネットワーク構築の機会と見なした。実際に米国は MB の任期初年度の 2008 年から韓国に米国主導のミサイル防御体制(MD)参加および韓・米・日安保対話創設を積極的に要求し、MB 政府はこれを受け入れた。ついには、韓国が沖縄やグアムへ向かう弾道ミサイルの迎撃に寄与する方案まで密室で議論されてきた。

米・日両同盟国が願うのは MD を軸にした韓・米・日三角同盟だ。三国共同で行なえば費用や政治的負担も減って作戦上の長所も多いという理由からだ。しかし、これは典型的な米・日同盟の利己的論理だ。韓国の立場からすると本格的に MD に加担する場合、数十兆ウォンもの予算の浪費と北朝鮮・中国・ロシアとの関係悪化、そして東北アジア有事の際、韓国が攻撃対象となる現実は避けられない。論議中である済州海軍基地建設の戦略的危険性もまさしくここにあるということは、すでに何度も強調されたことがある。

【戦略的危険を押し付けるのはもう限界】 もし、北朝鮮で内戦のような重大な急変事態が発生すれば韓・米連合軍投入を考慮するという「概念計画 5029」は、MB 政府以降、事実上作戦計画となった。ところで、その場合、もっとも大きい変数は中国の軍事的介入の可否である。MB 政府は日本と軍事協定締結を推進し、日本のイージス艦の西海配備が「私たちの安保利益にもっとも適する」と主張したが、これは日本が中国を牽制する役割をしてくれれば、米国艦艇の西海への出入りははるかに自由になり、北朝鮮急変事態に対する軍事的対応がたやすくなくなるということだ。

しかし、これは非現実的だけでなく非常に危険千万な考えだ。まず北朝鮮国内で大きな問題が発生したからといって、外部から武力を投じることは国際法的に許されない発想だ。また、実際に北朝鮮で急変事態が発生したからといって、米国と日本が韓国の武力による吸収統一を支援するために軍事力を投じるかは未知数だ。軍事力投入は北朝鮮とはもちろん、中国とも戦争を覚悟しなければならないからだ。

イラクとアフガニスタンで苛酷な代価を払った米国は大規模な地上軍投入をこれ以上行わないという方針を既に固めている。去る3月に実施されたキーリゾルブ韓・米合同軍事訓練で北朝鮮急変事態発生時、10万人の韓国軍を投じる安定化訓練を史上初めて実施したのも「血を流すことは韓国軍が引き受ける」という米国の本音をよく表している。

結局、MB政府の空しい吸収統一論は米国と日本に利用されているだけといっても過言ではない。米・日同盟はすでに中台の兩岸問題と尖閣列島紛争を適用対象に含めた。米・日両国が「北朝鮮の脅威」を口実に制海権を西海にまで伸ばそうとするのはこのような戦略的打算があると見なければならぬ。

MB政府が空しい吸収統一に執着することで、大韓民国が払っている代価はあまりにも苛酷だ。南北関係は回復が不可能なほど破綻状態にある。20世紀の日本軍国主義と冷戦のもっとも大きな被害者である韓国が、日本の軍事大国化と東北アジアの新しい冷戦を煽るような言動を見せているのも、この上なく大きな問題だ。

もうMB政府はこれ以上、次世代に戦略的危険を押し付けることを止めなければならぬ。盧武鉉政府の時に用意された「西海平和協力特別地帯」を無視して西海を対決の海に変質させたうえに、日本のイージス艦配備まで容認して西海が韓国、北朝鮮と米国、中国、ロシア、日本の角逐の場になる状況を見ずから招いてはならない。韓・日軍事協定締結の動きも直ちに中断し、済州海軍基地建設も戦略的観点で得失関係を冷静に確かめてみるべきだ。これはMB政府が次期政府と次世代のためにできる最小限の道理だ。

北朝鮮で仏教の心を掘り起こす

池口恵観 最福寺 法主

真言宗機関紙「六大新報」2012年5月号

私は4月10日から1週間、北朝鮮を訪問してきました。初めて北朝鮮を訪れた平成21年秋以来、5回目の訪朝でした。今回の訪朝の目的は、金日成主席生誕百周年慶祝行事への参列と、人工衛星ロケット打ち上げの総合指揮所を見学したりすることでしたが、私にはもう一つの仕事がありました。

それは、私が1年前に北朝鮮に寄贈し、金正日総書記の指示により正方山成仏寺に安置された、金日成主席観世音菩薩像（以下、金日成観音像）に参拝し、その前でご供養の祈りを捧げることと、今回、寄贈することとなった金正日総書記千手観世音菩薩像（以下、金正日千手観音像）を、朝鮮仏教徒連盟に引き渡すことでした。

金正日千手観音像は、昨年4月に金日成観音像を寄贈したあと、主席の遺志を継いで、北朝鮮と北朝鮮人民の自立自存のために、全身全霊で国家運営に取り組まれている総書記は、北朝鮮人民にとって、千本の手で衆生を救おうとされる千手観音のような存在だと思い、取り急ぎ造った仏像です。

今回、金正日千手観音像は朝鮮仏教徒連盟に寄贈しました。その贈呈式で読み上げた願文で、私は総書記の事績を称えつつ、次のように述べました。

「この千手観音像の腹部で、掌を上にもまれし印が受けている金の器は、総書記の後継者となりし金正恩氏を象徴せり。北朝鮮の国家繁栄、北朝鮮人民の幸福を願った建国の父・金日成主席観音菩薩が顕現する大欲は、金正日総書記の手を経て、金正恩氏に受け継がれんことを念願するものなり。」

また、正方山成仏寺の金日成観音像の前で執り行った供養では、私は真言密教の正式な法衣を着て、願文でこう述べました。

「我、本日、金日成主席観音像の御前で、真言密教秘法を修し、金日成主席の御霊安らかなれと祈るとともに、金日成主席観音像が、朝鮮民主主義人民共和国および同国人民に平和と繁栄もたらし、日朝友好ひいては北東アジアの平和、さらには世界の恒久平和・人類永劫安寧につながらんことを、全身全霊にて祈念し奉れり。」

私は5回の訪朝を通して、日朝友好の促進にかける私の仏教者としての思いが、次第に北朝鮮の仏教者の心にしみ込んでいくような感じを受けています。私自身、2年半前に初めて訪朝するときには、北朝鮮に仏教の心がこれほどまでに残っているとは思っていませんでした。ただに、北朝鮮に仏教の根っこが根強く残っていてくれたことに、強く感謝すると同時に、大きな希望を感じています。

今から約1200年前、弘法大師空海が唐は長安の青龍寺で、恵果阿闍梨から密教のすべてを伝授されたとき、恵果阿闍梨の高弟たちの中に、現在の北朝鮮にあたる新羅からの僧侶が何人かいたと言われています。私が初めて北朝鮮を訪問し、最初に案内された仏教寺院が妙香山普賢寺という寺でしたが、その寺のご本尊は、何と真言密教の中心仏である大日如来でした。そのとき私は、歴史の底流にある日本と北朝鮮の深い縁を実感しました。

北朝鮮の仏教寺院は、朝鮮戦争の戦乱で、ほとんど灰燼に帰したと言われています。そして停戦協定が成立したとき、金日成主席がいちばん最初に発した号令が、「仏教寺院を再興せよ」ということだったそうです。そして、現在北朝鮮には数十の仏教寺院が残り、朝鮮仏教徒連盟の僧侶の皆さんが、仏教の伝統を受け継いでおられるのです。私は、北朝鮮に残る仏教の根っこをテコに、日朝親善の必要性を訴えていけば、必ずや活路は開けると確信しています。

そもそも私が日朝友好に身口意をフル回転させるようになったのは、朝鮮半島における過去のさまざまな戦いで、非業の死を遂げていった戦没者・戦争犠牲者の慰霊祭を、北朝鮮で行うことによって、北東アジアに平和を招来したいと考えたからです。その戦没者慰霊は仏教の怨親平等思想に基づくものです。怨親平等とは、「不幸にも敵・味方に分かれて戦ったとしても、戦争が終わったら、敵・味方の区別なく戦没者を慰霊する。それが戦後の平和の礎となる」という考え方です。

朝鮮半島は歴史的にさまざまな戦争が繰り返されてきた地域であり、現在もなお、朝鮮戦争の影を引きずったまま、南北分断国家の悲劇が続いています。そして、多くの戦没者・戦争犠牲者の霊が慰霊されないまま、朝鮮半島の山野を彷徨っているのです。私は、朝鮮半島ひいては北東アジアに平和をもたらすためには、まず朝鮮半島で非業の死を遂げた戦没者の供養を行うことが必要だと感じ、北朝鮮にアプローチをしたのです。

北朝鮮の事務方は、「そういうことを言われたことは初めてだ」と驚き、当初はどう対応しているのか、にわかには判断できなかったようです。しかし、今回、北朝鮮側から、日本人の遺骨の供養、その後の処置をどうしたらいいのか、相談がありました。最近、平壤市内や周辺で道路や住宅の開発を進めている過程で、終戦前後の混乱期に現地で亡くなった日本人と思われる遺骨が、相次いで見つかっているようです。私が「その遺骨は日本に持ち帰ることはできますか」と訊ねると、「できると思う」という返事でした。

北朝鮮側は何らかの事情で、現地で非業の死を遂げた日本人の慰霊を認め、その遺骨を日本に持ち帰ることを認めるようです。私が2年半前、怨親平等思想に基づく戦没者・戦争犠牲者の慰霊祭を提案したことが、徐々に受け入れられそうな動きになってきたわけです。怨親平等に基づく慰霊祭であれば、日本人だけでなく、朝鮮人も中国人も米国人も、朝鮮半島で非業の死を遂げたすべての御霊を慰めることになるのです。

私は、日朝間にそういう慰霊の空気が醸成されてきたことは、やがて日朝関係の改善につながり、拉致問題の本質的な解決にも資すると確信します。それはまた、北東アジアの平和に結実してゆくに違いありません。

私が平壤に滞在中に、金正恩氏が朝鮮労働党第一書記、中央軍事委員会委員長、国防委員会第一委員長に就任し、正式に党・国家・軍の三権を握る最高指導者となりました。北朝鮮の幹部たちには、この若き指導者に期待する雰囲気を感じられました。

今回、人工衛星発射場などを外国メディアに公開したこと、打ち上げ失敗を短時間のうちに認めたこと、金正恩第一書記の姿や肉声を外国メディアを通じて世界に発信したこと等々、北朝鮮に変化の兆しが見えています。スイスで四年間の留学生活を経験し、数カ国語を話すことができるとも言われる新しい指導者のもとで、日朝関係にも新たな展開が生まれる可能性もあります。アメリカのクリントン国務長官もメディアを通じて、金正恩第一書記に対して、「千年後まで評価される指導者になれ」という意味のメッセージを送っています。

日本が金正恩第一書記が率いる北朝鮮との間で、拉致問題の本質的な解決を図り、日朝国交正常化を実現して、北東アジアの平和に貢献する、という大欲を持つならば、「対話と圧力」の圧力に傾いた北朝鮮政策を見直し、北朝鮮との間に保たれているいかなる細いパイプも見逃さず、また北朝鮮からのいかなる微かなシグナルも見落とさず、日朝新時代構築へのアンテナを研ぎ澄ませておく必要があります。

今回の訪朝はいろいろな意味で、将来に光を感じることができる、意味のある一週間でした。私は一宗教家として、これからも日朝間の問題解決に向けて身口意をフル回転していくつもりです。合掌

北朝鮮の人工衛星打ち上げと ミサイル防衛システム配備の失敗

田窪雅文 ウェブサイト「核情報」主宰

「社会民主」2012年6月号

3月16日、北朝鮮は、4月12日から16日の間にロケット「銀河3号」を使って人工衛星「光明3号」を打ち上げると発表した。今回の打ち上げ基地は、北朝鮮北西部東倉里（トンチャンリ）で、ロケットは南に飛ぶとのことだった。これを受けて、日本政府は、この打ち上げが失敗してロケット本体あるいは破片が落ちてきた場合には、これを打ち落とすと発表。そして、弾道ミサイル迎撃ミサイルSM-3搭載のイージス艦を沖縄周辺に2隻、日本海に1隻、地対空誘導弾PAC3を沖縄本島、宮古島、石垣島、さらには首都圏にも配備した。打ち上げは失敗に終わった。一方、日本政府内部および国民への情報伝達システムも失敗に終わった。

打ち上げ失敗の詳細は、残骸の落下水域を含め、各国政府がそれぞれ持っている情報をすべて公表するまで解明できないが、はっきりしていることがある。1つは、日本政府の混乱ぶりから言って、実際に多数の弾道ミサイルが予告なしに飛んで来たときに、ミサイル防衛システムが役に立ちそうにないことが明らかにされたということだ。もう一つは、今回の騒動が、韓露両国との間の外交問題の種をまいたということだ。

韓国は、今年10月に人工衛星搭載ロケット「羅老（ナロ）号」を打ち上げる予定だ。韓国の打ち上げは、これまで2回失敗している、そのコースは、今回の北朝鮮の発射と同じく南に飛ぶものだ。ただし、北朝鮮より東寄り、日本に近い。「羅老号」の第1段ロケットはロシア製だ。日本政府は、この打ち上げに対して、日本国民の安全を守るためと称して、ミサイル防衛システムを配備して、日本領土にロケット本体あるいは残骸が落ちそうになったら打ち落とすと大騒ぎするつもりなのか。全く対処しないとすると、今回の国民の安全の

ために配備というお題目は嘘であり、目的は他にあったと国民に告げなければならなくなる。

【ロケット打ち上げでも危険？】09年4月5日の銀河2号による「光明2号」の打ち上げの際は、ロケットは北朝鮮の東海岸の舞水端里（ムスダンリ）から東に向かって飛んだ。これは、地球の自転を使って速度を5%ほど稼ぐためだが、東には日本があり、問題となった。これに対し、韓国の羅老1号（09年8月25日）と2号（10年6月10日）は、韓国南海岸の羅老宇宙センターから南に向かって飛んだ。本州を横切る形にはならないので、こちらの方が日本にとっては安心だ。しかし、それでも、九州南西沖から沖縄本島周辺の上空を通過となる。

今回、銀河3号は、韓国のロケットのコースとほぼ並行に、南に飛ぶ計画だった。しかも、銀河3号のコースの方が西側に位置している。北朝鮮のロケットが危ないなら、韓国のロケットも危ないということになる。

北朝鮮は、核兵器とそれを搭載するためのミサイルを開発している。大陸間弾道弾と、打ち上げ用ロケットは、燃料の燃焼時間や軌道が異なるが、人工衛星打ち上げ実験が、ミサイル発射技術の実験の意味合いをも持ちうることは間違いない。だが、そのことと、実験に使われる「ロケット」本体または残骸が日本に落ちてくる可能性があるから危険だという議論は別の話だ。

北朝鮮が核兵器やミサイルの開発を完全に放棄した後、人工衛星の打ち上げをしたいと考えた場合には、北朝鮮の地理的位置から言って、やはり、この基地の辺りから南に飛ばすしかないだろう。南北朝鮮の打ち上げ計画の背景には、10番目の衛星打ち上げ国の地位の獲得競争という側面があるとの指摘もある。

危険性だけで論じるなら、韓国の打ち上げも同じ基準で考える必要がある。日本の外務省は、09年の北朝鮮の打ち上げから約2週間後の4月21日、約4ヵ月後に予定されていた羅老1号の打ち上げについて、平和目的なので問題にしないと説明した。日本が問題にしないことにした羅老1号の打ち上げは失敗に終わり、第2段ロケットのエンジンの破片と見られるものがオーストラリアのダーウィン近郊に落下した。昨年の羅老2号発射では、離陸後137秒で通信が途絶え爆発。宇宙センターから南に約470^{km}の海域で破片が回収された。

このような「実績」から言って、今年10月に予定されている羅老3号の打ち上げの際、日本はどうするのだろうか。各地にイージス艦やPAC3を配備して対応するのだろうか。韓国がロケットを南に飛ばすと言っているのに、コースから全く外れている首都圏にまでPAC3を配備するのだろうか。前述の通り、羅老号は、第1段がロシア製、第2段が「韓国」製だ。ロシアは、第1段の破片が「韓国」に分析されることも禁じているから、打ち落とすとの発表はもちろん、残骸の回収を試みただけで事態は相当複雑となる。

【実際に打ち落とせるのか】前回は、人工衛星の打ち上げであれ、米国を狙ったミサイルであれ、イージス艦2隻に搭載している迎撃ミサイルSM3で撃ち落とすという勇ましい議論があった。だが、米国に向かう大陸間弾道ミサイル（ICBM）を現在日本が配備中のSM3で日本近海から撃ち落とすというのはまず無理だ。SM3は、ICBMが燃料を燃やして加速中（ブースト段階）にこれを破壊するシステムではないから、この段階では使えない。ブーストが終わった後追いかけるのも、可能性のある時間帯はごくわずかで、至難の業だ。

今回は、日本政府は、ロケット本体あるいは破片が日本領土に落ちてくれば安全確保のため撃ち落とす宣言していた。ロケット本体も破片も、不規則な回転をしながら落ちてくる。ミサイルや弾頭で言うなら、極めて高度な回避行動をとっているようなものだ。それを打ち落とせると日本政府は考えているのか。そんな練習をしたことがあるというのか。一定した動きをする弾頭を追いかけるために開発されたSM3にとって、予測外に落ちてくるロケットに対処することは、想定外の作業だ。さらに、大気圏外で大きなロケット本体のどこかに

直径約 34 ㉿の体当たり装置が命中したとして安全確保効果はどれほどのものだろうか。

SM3 で撃ち落とし損ねた場合は、PAC3 が大気圏内で打ち落とすことになっていた。こちらは、一体型の迎撃ミサイルが自ら体当たりして、相手の破壊を試みる。

大気圏内のシステムでは、空気抵抗を利用して相手が直進以外の動きをすると当たりにくい。湾岸戦争では、イラクのスカッドのできが悪くふらふら動いて当たりにくいということがあった。制御不能となって落ちてくるロケット本体やその破片にどう対処するか。

今回の騒動を見れば、日本のミサイル防衛が、多数の弾道ミサイルの飛来に対処できないだろうことは明らかだろう。こんなシステムで、「撃つなら撃て」というような外交を、対北朝鮮あるいは対中国で行なうことの危険性が国民に理解されたなら、それを貴重な教訓として積極的に捉えることはできる。しかし、今年 10 月に予定している「韓国」のロケット打ち上げの際、効果のほとんど期待できないミサイル防衛システムの配備によって露「韓」との外交問題を招来する可能性は残っている。

★ トピックス

◆ 朝鮮学校支援、全国ネットワーク始動へ (朝鮮新報掲載 5. 23)

「朝鮮学園を支援する会全国交流会」が 20 日、東京・千代田区の日本教育会館で行われ、朝鮮学校支援団体を結ぶネットワークを「フォーラム平和・人権・環境」(以下、平和フォーラム)に事務局を置いて運営していくことが決まった。日本各地では数多くの朝鮮学校を支援する団体が活動しているが、他地域の支援団体との連携が課題になっていた。今回、各地の支援団体を結ぶネットワークが全国組織である平和フォーラム内に常設されることによって、朝鮮学校を支える取り組みが、全国的な連携を強め情報を共有、発信しながら展開されることになった。

交流会は、平和フォーラム、神奈川朝鮮学園を支援する会、朝鮮学校を支える会・埼玉、朝鮮学校を支援する新潟県民の会、高校無償化からの朝鮮高校排除に反対する連絡会、日本朝鮮学術教育交流協会の呼びかけで行われ、各地支援団体の代表、朝鮮学園関係者たちが参加した。

日本朝鮮学術教育交流協会の園部守事務局長の進行で行われた交流会ではまず、朝鮮対外文化連絡協会から送られてきたメッセージが紹介された。

続いて、平和フォーラムの藤本泰成事務局長が全国ネットワーク組織の必要性とその役割、方向性について説明。ネットワークを運営し、支援組織の全国化を視野にその輪を広げていくことが全会一致で決まった。

交流会では、東京、神奈川、福島、新潟、長野、愛知、大阪、兵庫、広島、福岡の支援団体代表たちが各々の活動報告を行い、日本政府によって「高校無償化」から朝鮮高級学校のみが未だ除外されている問題や、それに連動して発生している地方自治体の補助金停止の問題など、朝鮮学校が置かれた厳しい状況について話し合われた。

参加者たちは今後も定期的に交流しながら、朝鮮学校支援の輪を広げ、民族教育の制度的保障と権利拡充のためにあらゆる面で連携を強化し、より積極的な取り組みを行っていくことで一致した。

◆ 「変化する北朝鮮、国交交渉にむけ通路築け」 京都大学教授 小倉紀蔵 (朝日新聞掲載 5. 26)

「文化・芸術・市民交流を促進する日朝友好京都ネット」の一員として北朝鮮を訪問した。参加者の多くは学者であった。考古学、歴史学、経済学などの専門別にグループ行動した。

総勢 58 人という大人数が集まったのは「見たい所、会いたい人などの要望を極力受け入れる」という北朝鮮側の姿勢のためである。実際、各グループとも貴重な現場を踏査したり、重要人物と対話することができた。平壤市民と自由に会話することもできた。

北朝鮮は明らかに変化している。門戸を開こうとしているのだ。1990 年代の平壤とは異なって街は明るく、女性はおしゃれで優雅なマンションが次々と普請中だ。ビールはこくがあつてうまく、最新鋭のイタリア製絶叫マシンが人気の遊園地は、若者で賑わう。公園で遊ぶ女性の携帯電話は韓国製だった。もちろんこれは平壤という特殊な町の光景であつて、農村の貧しさは相変わらず厳しいようだ。

意外かもしれないが、北朝鮮の人と日本人は似ている。東アジアできちんと列をつくって電車やバスを待てるのはこの両国の人だけである。また住民が当番を決めて家まわり掃除をするのも、日本と同じだ。だから平壤の町にはゴミがない。この国の人びとには、自己統制という美德がある。その秩序感覚は、日本人にとっては心地よい部類のものだ。

多角度から複眼的にこの国をとらえるべきである。見方によって、不気味な独裁国家にも、また自主性と誇りに満ちた国にも、あるいは将来有望な経済的パートナーにも見えるだろう。こちらから話しかけると最初は怖い表情を崩さないが、話が進むと「朝日はお互い隣国だ。よい関係をつくりましょう」と満面の笑みで手を強く握ってくる。それが平壤市民だ。

日朝平壤宣言から今年で 10 年。この間、何が進展したのか。日本の経済制裁によってへこたれるような国ではない。核実験までおこなった。米国を外交的に翻弄した。そして日本が望んだものは何ひとつ得られなかった。

北朝鮮との国交交渉には無論、賛否両論があろう。だが拉致も核問題も、魔法使いが突然解決してくれることはありえない。まずは文化や経済などの交流によって通路を確保しつつ、未来を切り開くしか道はない。日本人は硬直せずに、大胆になる自由を持っている。国交交渉という大仕事には、保守もリベラルもひっくるめたオールジャパンで取り組むしかない。まさに日本の総合力が試されるのである。

◆ 「北朝鮮は新興市場」国際戦略情報研究所 代表取締役の原田氏が講演 (北日本新聞掲載 5. 31)

となみ政経懇話会の 5 月例会は 29 日、砺波市の砺波平安閣で開かれ、原田武夫国際戦略情報研究所代表取締役の原田氏が『『ミサイル発射後』の北朝鮮を探る～本当のプランは何か?～』と題して講演した。

原田氏は「北朝鮮を旧態依然とした独裁国家ではなく、新興市場として捕らえる必要がある」と述べた。

○…ミサイル発射をめぐる北朝鮮と米国の対立の背景には、ミサイル市場の奪いあいがある。北朝鮮のミサイルは安価で比較的性能が良いとされる。今回は発射に失敗したのではなく自爆させたとみている。それによって国連安全保障理事会の決議を回避した。ミサイル発射は米国にすれば韓国などにミサイルを売り込む機会となった。

○…北朝鮮がどこから見ても貧しく、経済的に将来がないという見方はしない方がよい。金正恩第 1 書記に権力が移ったことで、独裁体制から集団指導体制に移行したと言える。金第 1 書記は国際金融の本場であるスイスで教育を受けており、市場について熟知しているはずだ。

○…北朝鮮は新興市場になり得る。平壤では携帯電話がかなり普及しているほか、ビジネススクールが開講されている。賃金の安い北朝鮮で生産する自動車が輸出されれば、世界の自動車販売価格がかなり下がる。北朝鮮の経済利権を最も獲得しやすいのは日本だが、市場としての実情を把握しなければすでに投資している欧州に立ち遅れてしまうだろう。

◆ 「慰安婦の碑」米で波紋 (西日本新聞掲載 6.7)

米ニューヨーク・マンハッタンからハドソン川を渡り車で約30分のニュージャージー州パリセイズパーク市。人口約2万人の51%を韓国系が占める市中心部の住宅街に、その碑は立つ。

高さ1メートルほどの御影石に約60センチ四方の額が埋め込まれ、うずくまる女性を旧日本軍の兵が威圧しているような絵とともに、次の文字が刻まれる。

「1930年代から45年にかけて、大日本帝国の軍隊により、慰安婦として拉致された20万人を超える女性と少女を忘れないために」

旧日本軍の従軍慰安婦を記念して建てられたこの小さな碑が今、米国で波紋を広げている。日本の在ニューヨーク総領事や自民党議員が撤去を要請。反発した在米韓国人社会は全米22カ所に同様の碑を建てる計画で、米紙ニューヨーク・タイムズにはナチスによるユダヤ人大量虐殺(ホロコースト)を引き合いに、慰安婦問題への「適切な謝罪をしていない」と日本政府を批判する全面意見広告も出た。

碑は公立図書館の脇にひっそりと立ち、通りかかっても気付かないほどだ。地元住民以外が立ち入る場所でもない。2010年10月に建てられ、約1年半は何事も起きなかった。火を付けたのは、日本の国会だった。

今年3月、参院予算委員会で自民党の山谷えり子議員が碑の存在を取り上げ、記述は事実かとただした。野田佳彦首相は「数値や経緯を含め根拠がないのではないかと」答弁。「20万人」と「拉致」の記述が問題視され、碑は一気に政治問題となった。

5月1日、ニューヨーク総領事がロトウンド市長、キム副市長らと面会。同6日には山谷氏ら自民党議員4人も市を訪れ市長らに撤去を迫った。同党「領土に関する特命委員会」も同17日、官房長官に撤去への働き掛けをするよう申し入れた。

二つの面会をロトウンド市長らは振り返る。

「総領事は友好のため桜や漫画の本を寄贈したいと申し出た。こちらが喜んでいて、『それをスムーズに進めるためには少し問題がある。慰安婦の碑を撤去してほしい』と突然、言い出した」「国会議員たちは、軍が強制連行した事実はない。だから撤去しろの一点張りだった」

いずれの要請も市長は断った。韓国系のキム副市長は「ユダヤ人街で、ドイツ人がホロコーストの碑を撤去しろと言うのと同じだ」と憤る。

撤去要請への反発はすぐに出た。5月29日付のニューヨーク・タイムズに掲載されたショッキングな全面意見広告。

「覚えていますか」の見出しとともに、1970年にワルシャワのホロコースト慰霊碑前でひざまづく西ドイツのブランド首相の写真。「この行為はドイツによる心からの謝罪の象徴となった」とし、「対照的に、日本政府は慰安婦問題で適切な謝罪と補償をしていない」と主張した。

韓国メディアによると、広告は「撤去要請への抗議」として韓国・誠信女子大のソ・ギョンドク客員教授が企画し、歌手のキム・ジャンフンさんが費用を負担。今後、CNNなどでもCMを流す予定という。韓国系住民が多い全米22カ所で慰安婦の碑を建てる計画のほか、ニューヨーク市では慰安婦を記念するため、通りの名称を変更する案も持ち上がっている。

こうした事態に、パリセイズパークの碑づくりを主導した地元市民団体のパク氏(40)らメンバーは困惑を隠せない。「(多民族国家の)米国で、民族のアイデンティティと歴史を忘れないために碑を建てた。慰安婦問題を知らない韓国系米国人も多い。反日運動では決してなく、人権学習だ。だから、建てる場所も図書館を選んだ」

寄付金約3千ドル(約24万円)でできた小さな碑はしかし、彼らの意図とは別次元のい

がみ合いの渦に巻き込まれている。(ワシントン宮崎昌治)

【従軍慰安婦をめぐる動き】旧日本軍の従軍慰安婦をめぐるのは昨年8月、韓国の憲法裁判所が問題解決の努力をしないのは憲法違反と判断。これを機に李明博大統領が日韓首脳会談で解決を迫るなど、両国間で問題が再燃している。昨年12月には、ソウルの日本大使館前に慰安婦をモチーフにした少女像も建てられた。

日本は、1993年の河野洋平官房長官談話で「設置、管理及び慰安婦の移送は旧日本軍が直接あるいは間接に関与した」と認めた上で、おわびと反省を表明。強制性については「甘言、強圧によるなど、総じて本人たちの意思に反して行われた」とした。95年には政府支援による「女性のためのアジア平和国民基金」が発足したが、民間募金を「償い金」として渡す方法に「国家として賠償すべきだ」と反発が広がり、多くの元慰安婦が受け取りを拒否した。

慰安婦の数について、政府は93年に公表した調査結果で「総数を示す資料はなく、確定するのは困難」とした。研究者の推計では約2万人から約40万人まで開きがある

★ドキュメント

◇ 朝鮮民主主義人民共和国政府の声明・談話・論評

● 朝鮮外務省声明「2.29合意にこれ以上、拘束されない」(4.17)

米国とその追従勢力がまたもや国連安全保障理事会を盗用してわれわれの衛星打ち上げの権利をじゅうりんする敵対行為を働いた。

4月16日、国連安保理はわれわれの平和的衛星の打ち上げを「糾弾」する議長声明なるものを発表した。

われわれは、最初から最後まで平和的衛星の打ち上げの真正さと透明性を最大限示す特例的な措置を取ったし、これは広範な国際社会の共感を呼び起こした。

米国は、われわれの衛星打ち上げの平和的性格が客観的に確認されるのを阻み、あくまでも長距離ミサイルの発射に仕立てようとあらゆる卑劣な術策を弄(ろう)した末、これ以上真実を隠せなくなると、朝鮮は平和的衛星の打ち上げも行ってはならないという強盗の要求を国連安保理に指図した。

国連安保理が米国の強権と専横に押されて盗用されてきたのは昨日今日のことでなく、それによる破局的な結果は今も世界の至る所で毎日のように生じている。

敵対勢力がわれわれの衛星打ち上げを問題視する「根拠」としている国連安保理決議第1718号と第1874号は、われわれを敵視し、押さえ付ける強権の産物であり、普遍的な国際法まで無視してむやみにつくりに上げた不法の極みである。

米国におとなしく従わない国は国防力を発展させられないようにすべきであり、そのためには平和的な衛星の打ち上げの権利すら奪うべきであるというのが、この決議の強盗のような本質である。

このように、乱暴な二重基準行為が国連安保理で可能になったのは、衛星打ち上げのような高度な技術を自らが独占しようとする各国の利害関係が合致したからである。

こんにちの事態は、国連憲章に明記された主権平等の原則とは見掛けだけで、正義は専ら自力で守らなければならないということを明白に示している。

主権国家の平和的な衛星打ち上げの権利が甚だしく侵害されたことと関連して、朝鮮外務省は次のように声明する。

1. わが共和国の合法的な衛星打ち上げの権利を踏みにじろうとする国連安保理の不当千万な振る舞いを断固全面排撃する。

民族の尊厳と国の自主権を愚弄(ぐろう)し、侵害しようとするわずかな要素も絶対に許さないのは、わが軍隊と人民の確固たる原則である。

2. われわれは国連安保理の決議よりもはるかに優位を占める普遍的な国際法によって公認された自主的な宇宙利用の権利を引き続き行使していくであろう。

われわれは、国家宇宙開発計画に基づいて宇宙開発機関を拡大、強化し、静止衛星を含む国の経済発展に必須の各種の実用衛星を引き続き打ち上げるであろう。

平和目的のために宇宙を力強く征服していく朝鮮の前途は、何によっても阻めない。

3. 米国が露骨な敵対行為で破った 2.29 朝米合意にわれわれもこれ以上拘束されないであろう。

われわれは初めから、平和的衛星の打ち上げは 2.29 朝米合意と別個の問題であるので、朝米合意は最後まで誠実に履行するという立場を重ねて宣明し、実際の履行措置も取った。

しかし、米国はわれわれの衛星打ち上げ計画が発表されるなり、それにかこつけて朝米合意に基づく食糧提供のプロセスを中止し、今回は国連安保理議長の地位を悪用してわれわれの正当な衛星打ち上げの権利を侵害する敵対行為を直接主導した。

結局、米国は行動でわれわれの「自主権を尊重し、敵対の意思がない」との確約を覆すことで、2.29 朝米合意を完全に破棄した。

これにより、われわれは朝米合意を脱して必要な対応措置を自由に取れるようになったし、それによって招かれる全ての結果は米国が全責任を負うことになるであろう。

平和はわれわれにこの上なく大事であるが、民族の尊厳と国の自主権はさらに貴重である。

● 朝鮮人民軍最高司令部スポークスマン声明 (4.18)

全世界の大きな関心と期待の中で、わが軍隊と人民のめでたい太陽節 100 周年を大きな民族の誇りと自負の中で盛大に祝った。

意義深い太陽節 100 周年行事は、チュチェ朝鮮の栄光に満ちた 100 年史を誇らしく総括し、信念と樂觀に満ちて新しいチュチェ 100 年代に向かって力強く進軍しようとするわが軍隊と人民の揺るぎない決心を世界に誇示した大政治祝祭であった。

敬愛するわれわれの最高司令官金正恩同志をわが党と国家と革命の最高位に頂いたことにより、今回の祝祭の雰囲気は天に達し、世界は名人中の名人が東方の朝鮮に現れたと羨望（せんぼう）とうらやみの視線でわれわれを見るようになった。

南の人民も、非凡で特出した「青年領袖の出現」を仰いで民族の父であり、大聖人である「金日成主席の生まれ変わり」として民族の自負と誇りにあふれた賛嘆の声を高めていた。

今この時刻も、この地から始まり、全世界に広がっている類例のない歓喜のうねりは、全人類史的な「金正恩崇拜」「金正恩信頼」の高まる熱気で沸き返っている。

まさにこのような時に唯一、李明博逆徒とその一味だけは同族の祝祭の雰囲気冷や水を浴びせ、われわれの最高の尊厳をむやみに冒瀆（ぼうとく）する極端な挑発狂気を振りまき、天下非道の悪行を犯している。

いわゆる「大韓民国オボイ（父母）連合」所属の老いばれ反動層と青臭いごろつき大学生の群れをソウルの光化門広場をはじめ至る所に駆り出し、われわれの最高の尊厳に手出しする横暴非道なならず者の行為を働くようにしているのがまさに、李明博逆賊一味である。

今、李明博逆賊一味は烏合（うごう）の衆を駆り出してあえてわれわれの最高首脳部を象った模型を作り、そこに銃撃まで加える狼藉（ろうぜき）を働くように背後で操っている。

太陽節を祝うわが軍隊の盛大な閲兵式が終わった直後からは、「東亜日報」をはじめ悪質な保守メディアを動員してわれわれの尊厳ある映像まで捏造（ねつぞう）し、勝手に流して無礼に振る舞っている。

同族対決に狂奔するにもほどがあり、乱暴狼藉にも限界があるものである。

朝鮮人民軍最高司令部は、袖手（しゅうしゅ）傍観できない重大な事態が次々とつくり出されることに関連して同じ空の下で生きられない不倶戴天（ふぐたいてん）の敵、李明博逆賊一味をぶちのめすための全軍、全人民の民族挙げての聖戦を既に宣布した通り、休みなく高い強度で行う意志を内外にあらためて厳かに宣明する。

めでたい太陽節慶祝閲兵式の広場で誇示された閲兵隊伍（たいご）のりりしい気概と、限界を知らない威力ある攻撃手段の鉄の行進は、そのまま逆賊一味の牙城を踏みつぶすわれわれ式の攻撃戦につながるであろう。

われわれは昨年、わが民族が服した大国喪に犯した逆賊一味の万古無比の大罪と、その後かいらい軍部隊で生じたわれわれの最高の尊厳冒瀆行為に関連して理解に足りるだけの注意を喚起し、無慈悲な報復行動を予告する立場を内外に宣明している。

これ以上抑え切れず、我慢できないのがわが軍隊と人民の胸の中にあふれる怒りである。

われわれの当面の目標は、特大型の挑発行為が癖になった逆賊一味とその追従者の息の根を止め、挑発原点をこの地、この空の下から跡形もなくぶちのめすことである。

最高の尊厳を生命よりも重んじているわが軍隊と人民の一心で固められた銃は、特大型の挑発者に対

してそれが誰であれ、どこに居ても無慈悲な復讐（ふくしゅう）の洗礼を浴びせるであろう。

たとえソウルを中心であっても、それがわれわれの最高の尊厳をそしり、手出しする挑発原点になっている以上、その全てを丸ごと吹き飛ばすための特別行動措置が取られるであろう。

逆賊一味は、これまで犯した万古無比の大罪に対するわが千万軍民の無慈悲な審判がどんなものかを骨身に染みて思い知ることになるであろう。

犬の群れがいくらほえ立ててのさばっても、晴れた空のまぶしい太陽には手出しできない。

われわれの最高司令官を永遠の太陽に頂いたわが軍隊と人民は、新しいチュチェ 100 年代が始まる歴史の分水嶺（れい）で、一方では強盛復興の歴史的な進軍を促し、他方では一握りにもならない逆賊の犬の群れをきれいに一掃する聖戦を同時に繰り広げていくであろう。

わが国の神聖な天にあえて手を上げる者は、それが誰であれ天罰を免れなくなるということを銘記しなければならない。

● 祖国平和統一委員会声明「李明博逆徒の体制中傷は特大型の非常挑発事件」（4. 18）

万古無比の逆賊である李明博逆徒とその一味が、われわれの体制と最高の尊厳を甚だしく冒瀆する特大型の挑発行為をまたしても働いた。

去る 16 日、李明博逆徒はわれわれの太陽節祝賀行事の真っ最中にインターネット・ラジオ演説なるものに出演し、北の核とミサイルの開発がどうのこうのとわれわれの体制と尊厳を悪辣（あくらつ）に中傷した。

その上、「われわれ式に生きよう！」のスローガンまで中傷して核兵器の放棄と改革、開放、変化だけが生きる道であるという差し出がましい妄言を吐いた。

一方、かいらい逆賊一味は極右保守メディアを総動員してわれわれの太陽節祝賀行事を中傷、冒瀆する悪宣伝に熱を上げる一方、極右老いぼれと御用保守青年団体をはじめ烏合の衆まで駆り出してあえてわれわれの最高の尊厳を射撃の標的にし、その上白頭山の偉人たちの肖像画に不遜な行為を働くなど、極悪非道な茶番をためらわなかった。

これは、われわれに対する永遠に許し難いもう一つの特大型の非常挑発事件である。

今回のわれわれの太陽節祝賀行事は、事大と亡国を宿命のように甘受しなければならなかった悲惨な植民地弱小民族の波乱の多い受難の歴史に永遠の終止符を打ち、最上の誇りと尊厳をとどろかす太陽朝鮮の 100 年史を誇らしく総括し、限りなく繁栄する統一祖国の洋々たる明日と自主化された人類の未来を約束する世紀の大祭典である。

従って、全民族と全世界はわれわれの盛大な太陽節祝賀行事に深い関心を表して驚嘆を禁じ得ず、われわれの大慶事を心から祝った。

唯一、李明博逆徒とその一味だけが同族の大祭典をあれほど口角泡を飛ばしてこき下ろして一大謀略騒動に狂奔しているのは、彼らこそ民族の魂を投げ捨てて人間の仮面まで脱ぎ捨てた天下の悪党、人間の世界で同じ空の下で暮らせない最も醜悪な野蛮であることを示している。

かいらい一味の極悪非道な謀略ヒステリーは、太陽節祝賀行事を通じて誇示されたわれわれの一心団結の威力と無尽強大な軍事力にあまりに驚いて仰天した者の断末魔のあがきであり、偉大な継承の新しい時代を知らせる荘厳な宣言に対する全世界の嵐のような歓呼を阻もうとする必死の身もだえである。

特に、李明博逆徒が先頭で不純な悪態をついたのは、極悪な同族対決狂信者、反統一分子としての本性をさらにさらけ出したものであって、破綻した対決政策を維持し、臨終の運命にひんした命脈を永らえようとする笑止千万な醜態である。

金しか知らないつまらない奸商（かんしょう）の群れである李明博一味がわれわれの今回の盛大な太陽節祝賀行事に対してまで、金で計算して軽率に振る舞ってあらゆる悪態と誹謗（ひぼう）中傷に狂奔しているが、千万の金でも計算できないのがわれわれの一心団結であり、先軍の威力である。

われわれに核兵器と大陸間弾道ミサイル（ICBM）よりも威力があり、この世界のどこにもない不世出の天が遣わした統帥者の周りに固く結集した一心団結の武器があることをかいらい一味の類いが知っているのか。

まさに、それがあってチュチェ朝鮮の栄光に輝く 100 年史があり、太陽朝鮮の千年、万年の歴史が確固と保証されているのである。

われわれに対して「変化」をうんぬんするのは寝言のような妄想であり、変化を願う南朝鮮人民の峻厳（しゅんげん）な審判を受けなければならないのはまさに、かいらい保守一味である。

度重なる特大型の挑発的妄動は、天下の逆賊である李明博が百回生まれ変わっても対決的本性を絶対

に捨てず、そのようなあくどい者は無慈悲に懲罰しなければならないというわれわれの判断と決心が全く正しかったことをさらに明白に証明している。

李明博のような横暴非道な逆賊の群れをそのままにしては、南朝鮮人民と全民族が災難を免れない。

今、李明博逆賊一味に対するわが軍隊と人民の憤怒と敵愾（てきがい）心は天に達しており、極悪な挑発者を一人残らず全て一掃する敵撃滅の闘志に燃えている。

李明博逆賊一味が無分別な対決ヒステリーで得るものは、恐ろしい復讐の鉄ついと破滅しかない。

李明博逆賊とその醜悪な一味は、今回の特大型の挑発の代価をたっぷり払うことになり、それによって最も悲惨な運命を絶対に免れないであろう。

● 朝鮮政府・政党・団体声明「太陽節を冒瀆した李明博一味は謝罪せよ」(4.19)

わが民族と人類は、太陽朝鮮の永遠の4月と共に不世出の偉人賛歌が全世界に響き渡る中で金日成主席の誕生100周年を世紀の大祭典として最もめでたく祝った。

全同胞と全世界の大きな歓喜と感動の中で行われた太陽節100周年大祭典は、事大と亡国で受難多きこの国に民族再生の明るい曙光（しょうこう）をもたらし、人民大衆の自主的な生と幸福が花開く歴史の新しい起源を開いた主席と、わが民族の尊厳と誇り、英知を全世界にとどろかすようにした金正日総書記に対する全ての朝鮮民族と人類の限りない称賛の噴出であり、民族の恩人、不世出の偉人たちに対する最も崇高な敬意と最大の感謝の表れである。

それは特に、敬愛する最高司令官金正恩同志を先軍革命の首位に頂いて白頭山の天が遣わした偉人たちの志を継いで新たなチュチェ100年代に統一した強盛大国と社会主義の富貴栄華をもたらす太陽朝鮮の燦爛（さんらん）たる未来と不敗の混然一体を全世界に誇示した一大出来事である。

実に、今回の太陽節100周年祝賀行事のように、全同胞を興奮と感激で沸き上がらせ、世界の耳目を朝鮮に集中させた時はかつてなかった。

しかし、同族対決に狂った李明博逆賊一味は、民族の大慶事を祝うことはできないにしても、それに冷や水を浴びせてあらゆる悪事を働く永遠に拭えない大罪を犯した。

特に、李明博逆徒はわれわれの太陽節行事が行われる時、自分が直接前に出て北が長距離ミサイルの発射にだけでも金を幾ら使ったであろうし、その金があればトウモロコシを幾ら買ったであろうかの何のと言う一方、極右保守メディアは好機を得たとばかりにいわゆる「お祝い費用」だの何のと北が太陽節祝賀行事に莫大（ばくだい）な資金をつぎ込んだのだの、その金があれば食糧を数年分解決できたであろうだのの悪態をついた。

これは、われわれの領袖、われわれの体制、われわれの人民に対する耐え難い冒瀆、極悪で重大な挑発であって、全国の千万軍民の込み上げる怒りをかき立てている。

わが民族は昔から、隣の祝い膳にけちをつけることほど恥ずべきことはないとしてきた。

言葉と肌の色が異なる数多くの国の人々まで、わが民族の大慶事を心から祝って喜びを共に分かち合っているのに、唯一、かいらい一味だけが意地悪く行事の費用まで捏造して謀略騒動を起こしていることこそ、彼らがどんなに根性が悪く、対決に狂っているかをありのまま示している。

李明博逆賊一味の狂気じみた謀略騒動は、われわれの対外的イメージを傷つけてわが党と人民の一心団結を壊し、太陽節祝賀行事の巨大な波紋を何としても食い止めようとする断末魔のあがきである。

われわれの今回の盛大な太陽節祝賀行事は、共和国のあくまでも強大な国力と潜在力の一大誇示である。

李明博一味がそれを知った上で、そのような愚かな妄言を吐いているのかということである。

かいらい一味がわれわれの太陽節行事を金銭でむやみに計算して謀略騒動を起こしているのは、わが軍隊と人民のきれいで熱い衷情に対する愚弄（ぐろう）、冒瀆である。

最も汚い金の虫である逆徒一味は百回生まれ変わっても、千万の金でも買えないわが軍隊と人民の並々ならぬ精神世界と尊厳、誇りを全て知ることはできない。

わが人民は、自主的尊厳を守って峻厳な試練を乗り越え、勝利の一路だけを歩んできた。

わが人民が、ベルトを締め付けて先軍の旗印を高く掲げて共和国を不敗の強国に変貌させた精神力がまさにここにある。

李明博逆賊一味は、いわゆる費用だの何のと誰それを誹謗中傷する前に、人民の血税で搾り取った莫大な金を南朝鮮占領米帝侵略軍の維持と北侵戦争策動に投じ、一身の富貴栄華と不正腐敗に明け暮れて南朝鮮を富める者はますます富み、貧しき者はますます貧しくなる暗黒の世界、自殺王国にして民心の審判の対象になった自分の境遇を振り返る方がよかろう。

かいらい一味がわれわれの大国喪と最高の尊厳を悪辣に冒瀆したのに続き、太陽節行事までぶしつけに中傷しているのは、われわれの体制を陥れ、一心団結を害するために必死にあがっていることを示すだけである。

わが軍隊と人民は、領袖の最高の尊厳と領袖との混然一体を自分の生命よりも大事にしており、それに少しでも手出しすることに関しては少しも許さない。

最も高貴な志と情によって結集し、日々さらに強くなる領袖と人民の混然一体をいわゆる資金などで計って、崩そうとするのは実に愚かな妄想である。

かいらい一味は、わが領袖、わが体制、わが人民を正面切って冒瀆し、挑戦したことでわが民族と同じ空の下で暮らせない不倶戴天の敵であることを自らさらけ出した。

特に、敬愛する最高司令官金正恩同志が主席誕生 100 周年慶祝閱兵式で行った演説を通じて、国の統一を願い、民族の平和繁栄を願う人なら、誰とでも手を取り合うという度量が大きくて積極的な立場を明らかにしたことに対して、ぶしつけにも不純な謀略騒動で応えたのは、同族対決の道に引き続き進むという腹黒い下心をさらにあらわにしたものである。

今、わが軍隊と人民の忍耐は極限に至り、逆賊一味が二度とこの世で生きて息をし、われわれの最高の尊厳を冒瀆する妄動を働けないように徹底的に踏みつぶすという敵撃滅の意志がさらに激しく沸き上がっている。

わが軍隊と人民は、かいらい逆賊一味の謀略ヒステリーをこれ以上傍観しないであろう。

千万軍民が握り締めた銃には、復讐の銃弾・砲弾がフル装弾されており、白頭山の銃は極悪な売国逆賊を正確に狙っている。

かいらい逆賊一味は、われわれの太陽節行事を中傷、冒瀆した重大犯罪について直ちに謝罪すべきである。

さもなくば、われわれの千万軍民は活火山のような怒りを全て爆発させて復讐の聖戦に決起し、この地からかいらい逆賊一味を永遠に一掃するであろう。

李明博逆徒と徒党を組んでわれわれの尊厳を冒瀆する下手なラッパを吹く保守メディアと悪質な言論人も醜悪な反民族犯罪者であって、絶対に例外にならない。

かいらい一味は百倍、千倍の復讐に燃えるわが千万軍民の気概を直視して軽挙妄動してはならない。

● 朝鮮宇宙空間技術委員会スポークスマン談話 (4. 19)

われわれ宇宙空間技術委員会が「光明星 3」号打ち上げ計画を宣布した去る 3 月 16 日からこんにちに至る期間、世界はわれわれの衛星打ち上げの問題で絶えず沸いている。

真理に共感して正義を愛する人々は一様に、賛嘆と期待のこもった声を上げてきた。しかし、不義に染まって意地の悪さが体質化した敵対勢力は、不当な主張と詭弁（きべん）で世論を汚している。

その先頭に米日の反動層が立っており、李明博特等手先が騒々しくほえ立てている。

われわれの平和的な衛星打ち上げを認めてはならないというのが、米日の反動層の強盗さながらの主張であり、特等手先の間抜けなたわ言である。

われわれの「光明星 3」号が「銀河」運搬ロケットで打ち上げられたので衛星ではなく長距離ミサイルであり、従ってそれが米国本土と日本列島を恐ろしく脅かし、南朝鮮も不安にしているというのである。

後には、われわれの平和的な衛星打ち上げが国連安全保障理事会決議に対する「違反」であり、朝米合意に対する重大な「破棄行為」であり、自分らに対する軍事的「挑発」になるとの強弁まで張っている。

問うが、今まで米国や既成の衛星打ち上げ国が自分の衛星を誰その承認を得て打ち上げたことがあり、運搬ロケットで打ち上げた他国の衛星は衛星ではないと規定した前例でもあったのかということである。

果たして、米国や日本の衛星は息を吹いて打ち上げたり、何かの魔力で打ち上げたりしたと言うのか。

われわれは当初から、敵対勢力の不純な企図の産物である国連安保理決議なるものを認めていない。しかも、そこにはわれわれの衛星打ち上げを禁止するとの条項がない。

2. 29 朝米合意にも、米国がわれわれの自主権を尊重してこれ以上敵視しないという内容はあっても、われわれの衛星打ち上げを認めないという文言はない。

結局、不法・無法の決議なるものを考案し、それを悪用して他国の自主権を乱暴にじゅうりんし、公正な国際秩序を自分勝手に破って双方の合意を一方的に破棄しているのがほかならぬ米日の反動層とそ

れにむやみに追従している李明博特等手先の一味であるということをそのまま示している。

最近、国際機関としての公正さを失って久しい国連安保理がわれわれの平和的な衛星打ち上げを問題視する議長声明なるものをまたしても発表するなり、李明博特等手先の一味が好機を得たとばかりに主人に取り入って夢中でほえ立てている。

脱毛症の老犬の気の抜けたあがきにすぎない逆徒の醜態こそ、わが民族の恥にほかならない。

朝鮮宇宙空間技術委員会は、われわれの今回の平和的な衛星打ち上げの過程を前後して現れたさまざまな勢力の動きを冷静に見守った上で、次のような原則的な立場を明らかにする。

1. 民族の宇宙科学と技術を知識経済時代の要求に即して向上しようとするにも、李明博逆徒のような特等手先から一刻も早く除去しなければならないということである。

もともと、李明博逆徒は科学と技術の見地から知能指数が2MBにしかない無知で蒙昧（もうまい）な白痴であり、初歩的な科学的思考機能も備えていない低能児である。

衛星と長距離弾道ミサイルも満足に区別できず、われわれの衛星打ち上げを「軍備競争」の産物であると言い散らしているのもやはり、彼がまさに政治と軍事の最も初歩的な問題も理解できない低能児であるからである。

日本で育つて特有のずる賢さと商売人気質で成長し、主人にうまくへつらう手腕で主人の米日の忠犬になった彼が、人間の高度な思考能力を持っているわけがない。

そのため、同族の衛星打ち上げであるにもかかわらず、それを阻止しなければならないという主人の要求をためらいなく受け入れ、狂犬のようにむやみにほえ立てているのである。

哀れな自分の境遇も知らず、口を開けば「ミサイル発射なので必ず阻止しなければならない」「核を廃棄して改革、開放すれば国際的な支援と協力もある」と差し出がましくほえているのがまさに、李明博特等手先である。

青瓦台の歴代の「主人」に、李明博逆徒のように「未熟な大統領」「ばか大統領」「無知な大統領」はかつて居なかった。

南朝鮮の政界、社会団体が李明博特等手先の4年間の政治を「失敗した政治」「ひどい政治」「顧みることがない政治」であると酷評し、一日も早く政界から退けという声を高めているのは決して偶然ではない。

李明博逆徒は、遅きに失したの感はあるが、自ら身を引くことで民心のこのような志向と要求に応えなければならない。

民族の宇宙科学と技術を革新するためにも、李明博逆徒のような人間のくずから一日も早く清算しなければならないというのが朝鮮宇宙空間技術委員会の変わりない立場である。

2. 宇宙科学と技術を軌道に乗せるには、科学技術分野でも敵対勢力のあらゆる妨害策動を粉碎し、国の自主権を徹底的に守っていかなければならないということである。

自主権は、国と民族の生命である。自主権を失った国と民族は、死人と変わらない。

われわれが昔も今も命は捨てても国と民族の自主権だけは捨てられないという不屈の信念と意志を持って闘ってきたのも、まさにそのためである。

衛星打ち上げは、われわれの堂々たる自主的権利であり、宇宙空間の平和利用を全ての国の権利と規定した「宇宙条約」にも合致する主権の行使である。従って、われわれの平和的な衛星打ち上げに米国や既存の衛星打ち上げ国が干渉すべきことではない。

万一、米日の反動層とその追従勢力の今のような傲慢（ごうまん）無礼な自主権侵害行為をそのまま黙過するならば、後には多くの人の食べる、使う、住むという最も初歩的な生存の権利まで奪おうと襲い掛かるようになるであろう。

自分らの強権と専横に従順でなければ平和的な衛星も打ち上げられないようにしようというのが、米日の反動層とその追従勢力が追求する弱肉強食の支配主義的な野心である。

わが民族は、事大と亡国を宿命のように甘受しなければならなかった過去の悲惨な植民地弱小民族ではなく、まして列強の角逐の場として無残に踏みにじられていた弱小国でない。

不世出の偉人たちを頂いて民族の尊厳と国の自主権を世界最上の地位に押し上げた堂々たる政治・軍事強国がまさに、社会主義のわが祖国である。

侵略と支配の魔手を宇宙空間にまで伸ばそうとする米日の反動層とその追従勢力の横暴な企図を絶対に許してはならない。

民族の尊厳と国の自主権を徹底的に守ることで宇宙科学と技術の平等な発展を遂げていこうとするのが、朝鮮宇宙空間技術委員会の揺るぎない立場である。

3. わが軍隊と人民は、米日の反動層とその追従勢力のあらゆる妨害策動を粉碎し、先軍の道に沿っ

て宇宙の平和利用のためにより一層力強く前進するであろう。

われわれの科学者、技術者は既に「光明星3」号が軌道に乗らなかった原因について具体的で科学的な解明を終えた状態にある。

今回の機会に得た全ての科学技術的データと貴い経験は、今後の宇宙開発にまたとない貴重な資本に、さらなる成功の頼もしい保証になるであろう。

われわれには、宇宙開発機関を最先端の要求にふさわしく拡大、強化し、国の経済発展に必須の実用衛星を引き続き打ち上げることを含む総合的な国家宇宙開発計画がある。

今、米国がわずかな食糧「支援」の包みを振ってわれわれの宇宙開発の権利を奪おうと画策しているが、それは単なる愚かな妄想にすぎない。

米国の「支援」があり、誰その「協力」があって生きてきたわが軍隊と人民ではない。

われわれには、二度とベルトを締め付けることなく社会主義の富貴栄華を思う存分享受できる全ての土台が十分に築かれている。

主人の米日の特等手先である李明博商売人の計算法や帝国主義者の数え方では到底見当もつかないのが、社会主義わが祖国の威力である。

米日の反動層とその追従勢力は、一心団結と不敗の軍事力に新世紀の産業革命を加えれば、それがすなわちわれわれの社会主義強盛国家であると宣布した名言の深奥な意味を肝に銘じなければならない。

先端科学技術の発展のために総突進するチュチェ朝鮮の荘厳な気概は、宇宙征服のための闘いでも余すところなく誇示されるであろう。

世界は、無限大の宇宙空間に絶え間なく打ち上げられるわが共和国の尊厳ある衛星を見て、自主権守護のための正義と真理の闘いがどう勝利するのかをはっきりと知ることになるであろう。

米日の反動層とその追従勢力がやかましく騒ぎ立て、事大と屈従が体質化した李明博ネズミ一味がいくらほえ立てても、われわれの平和的な衛星は宇宙空間に次々と力強く打ち上げられるであろう。

● 朝鮮人民軍最高司令部特別作戦行動グループ通告 (4. 23)

万古無比の逆賊李明博ネズミの群れに対するわが軍隊と人民の怒りは天に達した。

その怒りが「踏みつぶせ」「ぶちのめせ」「八つ裂きにせよ」の喚声が天地を揺るがしている。

それでも目が覚めず、あちこちを向いてこそそそしているのがまさに、李明博逆賊一味である。

4月20日には、ソウル江北区水諭洞のネズミの巣窟である「統一教育院」に現れ、「今、北にはパンだけでなく、個人の自由と人権も必要なもの」であるとし、われわれが核やミサイル開発の意志を曲げないなら、「北の体制変化に注目する方向」に進むべきであり、「以北住民の生活を改善するには協同農場を解体し、農地改革を実施するようにさせなければならない」と差し出がましいことをまたも言い散らした。

これに先立ち4月19日には、かいらい国防科学研究所なる所に現れてみすばらしい幾つかのミサイルをしげしげと見て、それが神聖なわが共和国のどこでも「即刻攻撃」できる精密性と威力を持っていると生意気に言い散らし、あえて「執務室の窓からの最高首脳部攻撃説」まで無礼に広める極めて重大な挑発狂気を振りまき始めた。

これに、金寛鎮かいらい国防部長官をはじめ軍部好戦狂らが共に調子を合わせて騒いだ。

現実には、逆賊一味の挑発狂気が既に分別を失って久しいことを示している。

一方、逆賊一味の侍女に転落して久しい保守メディアは、ネズミの群れの醜悪な妄動をそのまま世論化する醜態を演じるのに血眼になって奔走している。これには、ソウルの真ん中に位置する「東亜日報」とKBS、MBC、YTNのようなメディアまで加担している。

今まで犯した万古無比の大罪を千回、万回謝罪し、自ら死を選択しても気がすまない逆賊一味が、むしろ歯ざしりして挑戦しているのである。

目を追って険悪になる事態と関連して朝鮮人民軍最高司令部特別作戦行動グループは、委任により次のように通告する。

逆賊一味の無分別な挑戦を粉砕するためのわが革命武力の特別行動が直ちに開始されるということを告げる。

われわれの特別行動は、怒号した民心と怒りの爆発であり、われわれの最高の尊厳を死守するための千万軍民の聖戦である。

特別行動の対象は、主犯である李明博逆賊一味であり、公正な世論の大黒柱をかじっている保守メディアを含むネズミの群れである。

わが革命武力の特別行動は、いったん開始されれば3～4分、いやそれよりもさらに短い瞬間に、これまでにない特異な手段とわれわれ式の方法で全てのネズミの群れと挑発の根源を電撃的に焦土化することになるであろう。わが革命武力は空言を知らない。

● 朝鮮外務省スポークスマン声明 (4.22)

今、朝鮮半島には同族対決に狂った李明博逆賊一味の狂気が極限を越え、これ以上そのまま放っておけない非常事態が生じている。

天下の悪行だけを選んで働いてきた醜悪な逆賊一味がついに分別を失ってわれわれの最高の尊厳をまたもや悪辣(あくらつ)に冒瀆(ぼうとく)した。

心に大切に刻み付けられている精神的支柱を生命より貴い尊厳と見なし、それを冒瀆することに対しては我慢しないのが古今東西に一致した人間の本性であり、気高い思想感情である。

思想と制度、信教と政見の違いを超越して、それぞれの国と民族の最高の尊厳だけは尊重するのが人類の普遍的な道徳として固まってきた。

李明博逆徒は、あえて金日成主席の誕生100周年祝賀行事に金がいくらかかっただの、その額なら食糧をいくら買えるだのの悪意に満ちた金の虫の繰り言をぶつことで、わが人民の崇高な思想感情をむやみに切り付ける特大型の挑発行為を働いた。

民族再生の恩人、人類の大聖人であり、共和国の永遠の主席である金日成主席の誕生100周年は最上で最大の民族の祝日であり、人類史的な大慶事である。

同族としてこの意義深い祝日を共に祝うことはできないまでも、むしろ悪辣に中傷、冒瀆した李明博逆徒こそ、人間であることをやめた時代の汚物にほかならない。

人間がくずに転落するまでには過程があるものである。

振り返れば、李明博逆徒は6.15の統一の熱気にあふれていた北南関係を最悪の状態に追い込んだ災いであり、朝鮮半島と地域の緊張激化だけを生じさせた禍根であった。

逆賊一味が昨年、われわれに対する国際的な食糧協力の動きを阻もうとあがいた揚げ句、「北が太陽節のお祝いに使おうと食糧を備蓄する」という途方もない謀略宣伝にしがみついた際、われわれは既に李明博逆徒を表裏共にだめな人間の不良品と断じた。

今、わが軍隊と人民は太陽と仰ぐ民族の父を中傷、冒瀆した逆賊一味に対する込み上げる怒りを噴出させており、逆徒を無慈悲に懲罰できるよう命令だけ下してほしいと胸をたたいて叫んでいる。

古くから東方の礼儀国として有名なこの国の純朴な女性たちまでも、「李明博ネズミの群れをたたき殺そう」と絶叫する血のたぎる声が山河に響いている。

同族対決を唯一の生存手段と見なして最後のあがきをする李明博逆賊一味は、朝鮮半島と地域の平和と安定をあくまで壊す悪性腫瘍であって、一瞬でも早く除去すべきであるというのが一致した意思である。

政治的臨終を控えた逆徒が分別を失って最後のあがきをしていることにより今、朝鮮半島情勢は統制を失いかねない緊迫した状況に陥った。

生じた事態に対処して朝鮮外務省は、今後朝鮮半島で何かが起きる場合、その全責任は李明博逆徒にあるということを厳かに宣言する。

もし、同盟者やパートナーであるからといって人倫道徳まで無残に踏みこみじった人間のくずをかばい、わが民族内部のことに干渉しようとする国があるなら、天の果てに達したわが軍隊と人民の怒りの矛先を免れないであろう。

● 祖国平和統一委員会スポークスマン、朝鮮中央通信の質問に回答 (4.21)

最近、李明博一味がかいらい国防科学研究所をうろついて自分らが開発したミサイルを公開し、戦争狂気を振りまいていることに関連して21日、祖国平和統一委員会(祖平統)のスポークスマンは朝鮮中央通信の質問に次のように答えた。

19日、李明博逆徒は手下の好戦狂を率いてかいらい国防科学研究所なる所をうろつき、自分らが開発したというミサイルの発射シーンを収めた映像なるものを見て笑止にも戦争狂気を振りまく茶番を演じた。

逆徒は、北が自分らを見くびるので艦船も攻撃するのでであると述べ、北を圧倒する兵器が必要であると言う一方、かいらい軍部の連中は自分らのミサイルの性能がどうのこうのと「膺懲(ようちょう)」だの、「精密攻撃」だのの生意気な事も言い散らした。

これは、金日成主席誕生100周年慶祝閱兵式を通じて誇示されたわれわれの軍事的威力に戦慄（せんりつ）し、恐れおののいた者のヒステリックな発作である。

軍事門外漢、政治白痴である李明博逆徒が何が分かってかいらい国防科学研究所を訪れて訓示劇を演じたのも笑わせるが、40秒のミサイル発射映像で不安と恐怖に震えている自分らの仲間を慰めようと幼稚な茶番を演じたのはなおさら見ものである。

従って、南朝鮮の各階層もかいらい一味のミサイル公開劇に冷笑している。

われわれの革命武力は、米国の植民地雇用軍であるかいらい軍のような連中は眼中になく、かいらい好戦狂が少しでも動けばネズミを殺すように撲滅し、その機会にそもそも南朝鮮を完全に占領するであろう。

李明博がネズミの巣穴にすぎない青瓦台の地下防空壕（ごう）に閉じこもって生き残ることができるかと打算するのなら、誤算である。

人間に百害あって一利なしのネズミは残らずたたき殺さなければならない。

既に寿命が尽きた生ける屍（しかばね）も同然の李明博逆徒は、つまらない茶番にしがみつくとより自分の墓に行く考えでもすべきであろう。

● 祖国平和統一委員会スポークスマン、朝鮮中央通信の質問に回答（4.21）

最近、李明博一味がかいらい国防科学研究所をうろついて自分らが開発したミサイルを公開し、戦争狂気を振りまいていることに関連して21日、祖国平和統一委員会（祖平統）のスポークスマンは朝鮮中央通信の質問に次のように答えた。

19日、李明博逆徒は手下の好戦狂を率いてかいらい国防科学研究所なる所をうろつき、自分らが開発したというミサイルの発射シーンを収めた映像なるものを見て笑止にも戦争狂気を振りまく茶番を演じた。

逆徒は、北が自分らを見くびるので艦船も攻撃するのでであると述べ、北を圧倒する兵器が必要であると言う一方、かいらい軍部の連中は自分らのミサイルの性能がどうのこうのと「膺懲（ようちょう）」だの、「精密攻撃」だのの生意気な事も言い散らした。

これは、金日成主席誕生100周年慶祝閱兵式を通じて誇示されたわれわれの軍事的威力に戦慄（せんりつ）し、恐れおののいた者のヒステリックな発作である。

軍事門外漢、政治白痴である李明博逆徒が何が分かってかいらい国防科学研究所を訪れて訓示劇を演じたのも笑わせるが、40秒のミサイル発射映像で不安と恐怖に震えている自分らの仲間を慰めようと幼稚な茶番を演じたのはなおさら見ものである。

従って、南朝鮮の各階層もかいらい一味のミサイル公開劇に冷笑している。

われわれの革命武力は、米国の植民地雇用軍であるかいらい軍のような連中は眼中になく、かいらい好戦狂が少しでも動けばネズミを殺すように撲滅し、その機会にそもそも南朝鮮を完全に占領するであろう。

李明博がネズミの巣穴にすぎない青瓦台の地下防空壕（ごう）に閉じこもって生き残ることができるかと打算するのなら、誤算である。

人間に百害あって一利なしのネズミは残らずたたき殺さなければならない。既に寿命が尽きた生ける屍（しかばね）も同然の李明博逆徒は、つまらない茶番にしがみつくとより自分の墓に行く考えでもすべきであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマン談話「衛星打ち上げでの米国の二重基準適用を非難」（4.23）

最近、世界の平和と安全保障の美名の下、露骨な二重基準を振りかざす米国の偽善と鉄面皮さがことごとくあらわになって国際社会の非難の的になっている。

初めから終わりまで透明性を伴って行われたわれわれの平和的な衛星の打ち上げを「長距離ミサイルの発射」として悪意に満ちて中傷し、強圧的な「糾弾」騒動を主導した米国が、他国が公に行った長距離ミサイルの発射は庇護（ひご）して国際的な物議を醸している。

世界の人々に後ろ指をさされると米国は、誰それは国際法を十分守ったので構わないが、われわれはそうでないので問題視されるという詭弁（きべん）を並べ立てた。

あえて国際法の順守について論じるなら、自身の利害関係に抵触するときは自らの手をつくった国連安全保障理事会の決議も、口癖のように唱えていた核拡散防止条約（NPT）も無視して自分らの腹を肥やす先頭に立つのがほかならぬ米国である。

問題の本質は、自分らの言うことを聞かずに逆らう国は国防力の強化はもちろん、平和的な発展までも阻まなければならないが、自分らと仲の良い国は核兵器であれ、長距離ミサイルであれ全て持って差し支えないという米国の二重基準の適用にある。

どれほどなら、西側のメディアまでも何をするかが問題ではなく、誰がするかが問題であるというのが米国式の論理であり、体制の違いによって合法性と不法性を規定する米国の振る舞いを明白な二重基準であると嘆いたであろうか。

自分に不利なときは国際法も、国連もむやみに踏みにじって強権と専横に明け暮れ、他人に言い掛かりをつけるときは国連安保理の権能を盗用して不当な決議を強圧的に作り上げるのが米国の常とうの手法である。

米国が作り上げた国連安保理決議の 1718 号と 1874 号がまさに、その代表作である。それこそ、「宇宙はいかなる差別もなく全ての国家によって自由に開発、利用」されるべきであると規定した普遍的な国際法も、国連憲章に明記されている主権平等の原則も乱暴に破って不法につくり上げられた二重基準の極みである。

結局、米国の二重基準の適用はわれわれに対する敵視政策の産物である。

われわれが行う全てのことに対決観念から見て接するのが体質化した米国は、平和的な核エネルギーの利用も、宇宙開発も自分らを脅かす国防力の強化へつながりかねないので、とにかく阻まなければならないという敵視政策を国際化するのに国連を系統的に悪用している。

国連安保理が米国の強権と専横に押されて対朝鮮敵視政策の実現に盗用され、主人の後押しで再選された国連事務総長が手先の本性をさらけ出し、われわれを攻撃する突撃隊の役を演じているのがこんにちの遺憾千万な現実である。

諸般の事実、専ら自らの力があってこそ正義を守り、世界の自主化も力強く促すことができるし、われわれが選択した自主の道、先軍の道が至極正当であることを立証している。

● 朝鮮外務省スポークスマン談話 (4.23)

「国連常任理事国の核『共同声明』は不法行為」

オーストリアのウィーンで行われている 2015 年の核拡散防止条約 (NPT) 再検討会議のための第 1 回準備委員会に参加した国連安保理の常任理事国が、われわれの平和的衛星打ち上げを問題視して核活動の中止と核抑止力の放棄を求める「共同声明」なるものを発表した。

これは、米国の対朝鮮敵視政策に便乗してわれわれの自主権と平和的な宇宙および核利用の権利を侵害する重大な不法行為である。

問題の重大さは、常任理事国が公正さを離れて絶え間ない核の威嚇、恐喝と敵視政策で朝鮮半島の核問題を生じさせた張本人である米国の犯罪行為に対しては背を向け、9.19 共同声明の同時行動の原則にもそぐわない米国の強盗さながらの要求だけを一方的に受け売りにしたところにある。

この世で核実験を最も多く行い、核兵器も最も多く保有している国々がまさに国連安保理常任理事国である。

全人類を数百回も破滅させられる危険な核兵器庫を引き続き維持していることにより、他の誰その核問題を論じる道徳的資格さえない彼らが、核戦争の脅威を最も長い間直接的に受けてきた被害者であるわれわれに言い掛かりをつけたのは、憎らしく盗っ人たけだけしいことにほかならない。

NPT の履行を検討する場でこのような詭弁 (きべん) を持ち出した目的は、常任理事国が自分らの核兵器独占を永久化するために会議の耳目を他にそらして核軍縮義務の履行を回避しようとするところにある。

核大国が NPT から脱退する国がこれ以上ないようにするには、条約の基本使命に即して各国の平和的核利用の権利を尊重しなければならず、自分らの核軍縮の義務についてこれ以上言葉遊びやごまかしにしがみついてもならない。

米国が原爆でわれわれを脅かしていた時代は永遠に過ぎ去った。

われわれは、自衛的な核抑止力に基づいて国の自主権をしっかりと守り、平和的な宇宙開発と原子力工業の発展を力強く推し進め、人民が社会主義の富貴栄華を思う存分享受する強盛国家を誇らしく建設するであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマン、朝鮮通信社記者の質問に回答 (5.15)

「『米国人拉致』説は完全な嘘」

最近、日本のいわゆる「拉致問題」関連団体と右翼政界の人物らが幼稚で汚い反共和国拉致騒動に熱を上げている。

日本自民党所属国会議員のヤマタニが5月10日、ワシントンで記者会見し、とてつもなく2004年中国留学中失そうした米国人がわれわれに「拉致」されたかもしれないと騒ぎ立てた。これは完全な偽りであり、わが共和国に対するもうひとつの新たな謀略策動である。

かつて、日本の反動層は国内で起きた失そう事件をわれわれと無理に結びつけて拉致騒動を起こして、とんでもないねつ造ということが露わになって世人の非難と嘲笑を受けたことがある。

国内での轍を踏みながら国外で荒唐無稽いな茶番劇を演じる日本反動層のざまは、それこそ精神病者の最後の身もだえに過ぎない。

日本の反動層がわれわれの誠意ある努力によって完全に解決されてこれ以上存在しない「拉致問題」を唱え続けたことにも満足せず、この国、あの国と結びつけていわゆる新たな拉致説を唱えているのは、彼らの反共和国対決ヒステリーをありのまま見せている。

日本で政局が不安定になるたびに、右翼政客は民族排外主義と反共和国敵対感鼓吹で人気を上げ、危機を免れようと反共和国拉致騒動によく執着したりした。

人気を上げることができるならば、汚くて幼稚な謀略劇の操り人形にでもためらわずに出演するのがまさに、反共和国謀略団体に命脈を握られているヤマタニのような日本の政治家である。

事理も見分けられず、偽善と謀略でまだらになった日本の政治に世人はつばを吐いている。

● 祖国平和統一委員会のスポークスマン、朝鮮通信者記者の質問に回答 (5.17)

先日、李明博逆徒が中国を訪問して中国、日本、南朝鮮会談で北の核実験と追加挑発を絶対に許してはならないとし、「緊密な対処」「効果的な対応」などと言って意地悪く振舞った。

逆徒は、共同声明にわれわれに言い掛かりをつける内容を書き入れるようにしようと奔走し、あちこちを訪ね回ってわれわれを誘う悪口を吐いた。

李明博逆徒が南朝鮮で極悪非道な大逆罪をこととしても満足せず、外国に行ってまで悪態をついたのは、自分がどんなに悪質な対決狂信者で、天下に卑劣かつむさくるしい逆賊であるのかを自ら示したことになる。

いったい、6.15を覆して同族に挑発し出たのが誰であり、朝鮮西海で相次いで火種をつついたのがまた誰であり、それにも満足せず、しまいにはわれわれの最高の尊厳まで中傷、冒とくして北南関係を完全に破たんさせた挑発者が誰なのか。

そのような極悪な挑発の張本人が誰それに対して、あえて「挑発」などと言うことこそ、実に厚顔無恥で笑止千万な妄動だと言わざるを得ない。

そのうえ、あらゆる悪行と不正腐敗によって南朝鮮内で呪いと糾弾、排撃を受け、側近の一味からも排斥されて生ける屍の境遇になった逆徒が外国に行って何らかの支持を得てみようとか何かを言い散らして振舞ったさまこそ、見ものである。

頼るところもなく、どんなに慌てふためいたなら、外国に行ってまで鼻持ちならぬ醜態を演じたことであろうか。

南朝鮮内であちこちから追い詰められて少しも動けない分際で、恥知らずにも外国へ行って誰それに言い掛かりをつけていくら悪口を並べ立てて騒乱を起こしても、得るものは何もない。

逆徒が誰それの「挑発」などと言って狂奔するほど、世人の嫌悪感をいっそうそそるだけだ。ネズミ李明博がいくらあがいても、臨終の時刻はより早まることになるであろう。

● 朝鮮通信省スポークスマン、朝鮮中央通信社記者の質問に回答 (5.18)

「謀略と捏造は李明博一味の体質化した悪習」

傀儡放送通信委員会委員長をはじめとする政界の人物らと南朝鮮の言論媒体の公式発表によると、去る4月28日から5月中旬までおおよそ16日間も南朝鮮全域がかつてなかった電波かく乱を受けて混乱に陥っていたという。

電波かく乱を受けた飛行機だけでも670余機、各種の艦船は110隻余りに及んだという。

着陸直前の飛行機が信号のかく乱に遭ってあわただしく機首を上げて空中で旋回し、恐怖を抱いて再び着陸するなど、連続的な大型事故によって不祥事が連発するおそれがあったという。

空中で試験飛行を行っていたかいらい海軍のS100無人機が電波障害を受けて急に「ミサイル」になって自分を制御していた車両に突き当たって数名が死んだり、重傷を負う参事が起こり、北侵戦争演

習に奔走していた南朝鮮占領米帝侵略軍とかいらい軍所属軍用機がまともに飛ばず、急ぎよ着陸する騒動も相次いで起きたという。

海ではGPS衛星航法システムが「バカ」になったため、指揮系統が麻痺したかいらい海軍艦船と漁船をはじめ数多くの民間船舶が自分の位置を失ってさまよう不正常的な事態が相次いで起こったという。はては軍事境界線南側の海にあるべきかいらい海軍艦船が共和国の黄海南道の地上に浮いているものと表れたというのだから、起きた混乱状態について推測して余りある。2万9000トン級旅客船とタンカーが前方を確かめることができず、衝突しかねなかったことをはじめ、操業中の漁船が漁場を脱して「越北」したり、勝手に航行したりするおそれが何日も続いたという。

地上では、かいらい陸軍部隊の基本通信システムがかく乱されて、やむをえず予備に掌握していた非常ケーブル通信システムに転換する大騒動が起きたという。

狂牛肉騒動に電波かく乱まで重なって、南朝鮮の空と地、海が丸ごと混乱の中で揺れていたわけである。

天下の悪事は天が知って天罰を下すと言われたものだ。そのためか、南朝鮮の巷では逆賊一味が犯した希代の大罪の値をどっさり支払っているという世論がだんだんと広がっているという。

問題は、このような大混乱が発生したことに関連して、しばらくの間、気が抜けて一言も言えずにいた逆賊一味が、遅まきながら気確かに持って、われわれに言いがかりをつける謀略劇、ねつ造劇を演じていることである。

初めは北の方からいわゆる電波かく乱信号が送られているようだとあいまいに唱えて、何を恐れたのか、その次にはそれが科学的に実証されたものではないと自分ら自らが否定したりした。

その逆賊一味がしまいには再び、開城からのかく乱信号に違いないと言って、われわれがロシアから最近搬入した車両型GPS障害手段を動員しているのだ、この頃は李明博逆徒の「委嘱」を受けた中国の働きかけによって、ついにわれわれが電波かく乱を中止したと、内外でねつ造説を流布させている。

まるで夢遊病患者のように振る舞っているのがネズミ李明博の群れである。

総体的に自分らがかいた恥を免れようと他人に言いがかりをつける体質的な悪習をまたもや、さらけ出しているのである。

かいらい放送通信委員長の名義によって、いわゆる「抗議覚書」をわが方あてに送ろうとした試みが破たんすると、今度は国際電気通信同盟と国際民間航空機構などを訪ね回り、人が見ても心苦しいほど、騒ぎ立てている。

われわれは逆賊一味の卑劣な悪態を別に物新しく見なさない。わが国の昔の寓話にあるように、悪事を働いて、その責任を他人に転嫁するのはネズミの捨てられない固有な属性である。

ネズミ李明博一味が「天安」号沈没事件をでっち上げては内外の嵐のような疑惑を強引に無視して「北関連」説に仕立て上げようとしたことについては世界が知っていることである。

「北関連」説を立証するために魚雷のスクリューの「1番」の字まで書いておいたのが白日のもとにさらされて、古今東西にかつてなかった特大型ねつ造劇として民族史にらく印を押されたが、逆賊一味はその意地悪な癖をいまだ直していない。

昨年4月、南朝鮮の「農協」金融コンピュータ・ネットワークシステムが最悪の麻痺状態に陥って億台の損失が出て世界の面前で恥をかくことが生じた時にかいらい情報院と検察を押し立ててまたもや「北の仕業」と結論を下して急いで公開したのである。

その時、被害当事者の「農協」メンバーらも「北の仕業」の発表が科学的な根拠のない「早まった結論」と抗弁し、かいらい軍機務司も「北の軍部の攻撃」に仕立てられないと公式発表したのはその後のことである。

執権与党の稚拙な権力争いの所産である「選管サイバーテロ」事件まで「北の仕業」に仕立てて赤恥をかいたのもやはり、まさにこの前のことである。

振り返れば、意地悪い政治で内部で起きた大小のすべての不詳事をいつも「北関連」説で収拾してみようと愚かに振る舞っているのがまさに、ネズミ李明博の群れである。

明白なのは、逆賊一味が「北の仕業」説と「北関連」説を代わる代わる流すほど、そのいずれも間違はなく同族対決の謀略劇、ねつ造劇として最終判決されるということである。

逆賊一味がいわゆる電波かく乱の「北の仕業」説を持ち出しているのは、千秋に許しがたい希代の大罪の重い刑罰から少しでも逃れてみようとする必死のあがきに過ぎない。しかし、ネズミの群れが犯した罪を免れてみようといくら身もだえしても、時はすでに過ぎ去ったということを知らなければならない。

残っているのはただひとつ、全民族の前で、世界の前でむしろの上に伏せて処罰を待ち、自ら自殺す

る道だけである。

逆賊一味は、けん族の不詳事を再び同族のせいと転嫁しようとする体質化した悪習を通じて、自分らこそ人間の皮をかぶったネズミの群れに過ぎないということを再度全世界にさらにはっきりとさらけ出すことになった。悪行をこととする連中にはいつも、さらなる罰と惨事が当たるということを銘記すべきである。

● 朝鮮中央通信社論評「日本と軍事協定を締結しようとする李明博」(5.18)

親日を叫んでこの世に生まれた李明博逆賊が、あの世への道も極悪な親日を選んだ。

今月末、金寛鎮かいらい国防部長官を派遣して日本の防衛相と対座させ、日本との「軍事情報包括保護協定」(GSOMIA)と「物品役務相互提供協定」(ACSA)を締結するというのである。

両軍部間で現在、このための最終的な協議を行っているという。

合同軍事演習と「国連平和維持活動」(PKO)など軍事行動の際の「協力」を名分にした南朝鮮・日本軍事協定の締結は本質において、米・日・南朝鮮三角軍事同盟の完成にその目的を置いている。

戦後、社会的・歴史的、政治的・経済的な関係により主人である米国と日本、米国と南朝鮮の軍事的密着は既に従属の構図で完成したと言える。

アジアの人民をはじめ国際社会の強い抗議と対日警戒心に押されて今まで保留してきた南朝鮮・日本軍事協定が締結される場合、三角軍事同盟は軍事的、法的に完結することになる。

烙印(らくいん)を押されたように、米・日・南朝鮮三角軍事同盟の完成は米国の対アジア戦略に基づくアジア版の北大西洋条約機構(NATO)の創設であり、朝鮮半島を含む東北アジア地域に新たな「冷戦」時代、新たな世界大戦の暗雲をもたらす危険極まりない軍事的冒険にほかならない。

現実的に、米国は誰それの増大する「軍事的威嚇」と「挑発」に対処するとの名目の下に、この軍事協定が締結され次第、3者間の初の合同軍事演習を開始し、来る6月にシンガポールで開かれる第11回アジア安全保障会議を契機にこの問題を協議することにしたという。

問題は、親米、親日に狂った歴代の南朝鮮執権者でさえ手を付けることにはばかったこの軍事協定の締結に、チ(ネズミ)明博逆徒があえて判を押すと言って出てきたことである。

まして、日本の反動層の領土膨張の野望と策動が日を追って露骨になり、それによってわが民族とアジアの人民の反日機運がいつにも増して高まっている時に、売国的で民族排外的な軍事協定の締結へとヒステリックに疾走している。

チ明博逆賊と言え、腹の底から親日根性を持って生まれ朝鮮民族として生きることを断念した徹底した親日・事大売国奴である。

執権以降今まで、日本との「過去を問わない未来志向的な関係」「新協力時代」を騒いで恥さらしな親日売国行為だけを働いてきた。

執権末期に至った今では、朝鮮戦争時の南朝鮮に対する「支援国と認めた」だの何のと「日本の役割」についての宣伝と親日軍事協定締結のための条件づくりに余念がない。

誰それの「軍事的威嚇」と「共同対応」を口実に、朝鮮半島とその周辺に極度の対決の雰囲気醸成することで朝鮮人民とアジア諸国の沸き上がる反日機運を鎮め、日本の反動層には何としても朝鮮侵略の道を再び開こうと躍起になっている。

死に絶える瞬間までも汚らわしい親日行為を続けて朽ち果てるということである。

南朝鮮の各界と民心がチ明博一味を指して「乙巳五賊」をしのぐ売国奴と断じ、排撃しているのはまさにこのためである。

歴史が示したように、極悪な民族反逆者であるチ明博逆徒は最も無残な死を免れないであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマン、朝鮮通信の質問に回答(5.22)

「G8宣言を全面排撃する」

われわれは最近、米国で行われたG8サミットの参加国が首脳宣言なるものを通じて、われわれの平和的な衛星打ち上げと自衛的な核抑止力に不当に言い掛かりをつけたことを断固糾弾し、全面排撃する。

正義と真理に背を向けて米国の対朝鮮敵視政策を庇護(ひご)する悪習に染まり、わが共和国の神聖な自主権を侵害しようとするG8の無謀な政治的挑発は絶対に許されない。

われわれは、敵対勢力のあらゆる妨害策動を果敢に打ち砕き、経済強国建設の必須の要求に即して自主的な衛星打ち上げの権利を堂々と絶え間なく行使するであろう。

われわれの自衛的な核抑止力は、わが共和国を力で圧殺しようとする米国の敵視政策によって生まれ

たものであり、敵視政策が続く限り、核抑止力は一瞬も中断することなく拡大し、強化されるであろう。

対話と協議を通じて朝鮮半島の核問題を平和的に解決できる道は依然として存在するが、米国がわれわれに対する敵視政策の撤回を行動で示す前にはいつまでも開かれないようになっている。

平和的発展に総力を集中する上で必要な朝鮮半島の平和と安定を保障するため、われわれは米国側に彼らが提起した懸念事項も考慮してわれわれが 2. 29 朝米合意の拘束を脱したが実際の行動は自制しているということを数週間前に通知している。

もともと、われわれは最初から平和的な科学技術衛星の打ち上げを計画したので、核実験のような軍事的措置は予定したものがなかった。

ところが、罪を犯した者がおびえるように、われわれの平和的な衛星打ち上げを問題視する不法行為を主導した米国がいわゆる「核実験」説をうんぬんして対決を鼓吹しているのである。

われわれの平和愛好的な努力にもかかわらず、米国が引き続き制裁圧迫劇にだけしがみついたら、われわれもやむを得ず自衛的見地から対応措置を取らざるを得なくなるであろう。

● 朝鮮人民軍総参謀部公開通告状「逆賊一味は自ら最後の選択をすべきである」(6. 4)

今、わが革命の首都平壤では、朝鮮少年団創立 66 周年祝賀行事が盛大に行われている。

今回の祝賀行事は、わが民族史にはもちろん、長久な人類史のどの節目にもかつてない子どもたちの大政治祭典である。

山奥の村と離島の村を含む全国各地から平壤に招待されてきた学生少年代表は実に 2 万人に達する。

子どもたちを国の王様であると述べて慈父の愛と恩情を注いだ金日成主席と金正日総書記の崇高な次代観、未来観がわれわれの敬愛する金正恩最高司令官によってそのまま受け継がれているのである。

胸躍るこの現実には全国の千万軍民が感激に包まれており、喜びで沸き返っている。

世界は、専ら社会主義朝鮮でだけあり得る大慶事であるとうらやみと羨望(せんぼう)の視線を送っている。しかし、唯一、南朝鮮の李明博逆賊一味だけは子どもたちのためのこのめでたい祝賀行事にも意地悪く冷や水を浴びせる妄動を働いている。

5 月 29 日からは朝鮮日報社、中央日報社、東亜日報社のチャンネル A と KBS、CBS、MBC、SBS の各放送局をはじめとするメディアを動員して一斉にわれわれの子どもたちの祝賀行事を非難する世論攻勢をかけており、それを契機にわれわれの最高の尊厳を中傷する新たな悪行にしがみついている。

最近、雄壮華麗に建設された平壤の倉田通りの幼稚園の園児が愛の記念写真を撮る幸運に浴し、勤労する人民の平凡な息子、娘が朝鮮少年団創立 66 周年祝賀行事に参加するなど、世界の万福を全て享受することについてわが最高首脳部の「意図的な演出」であると悪態をついている。

その上、全国の父、母が感激して喜び、300 万の学生少年の喜びの中で、笑いの中で開幕しためでたい大政治祭典を「見せつけ式行事」「人気取り重点の行事」「歓心買い行事」であるときき下ろしており、次代愛、未来愛の偉大な継承についてあえて「……見習う姿が見えたが、ヒトラーもまねている」だの、「ヒトラーユーゲントの子どもたちを育てる政治ショーを行っている」だのとわれわれの最高の尊厳をむやみに冒瀆(ぼうとく)する悪口をはばかり吐いている。

その一方で、汚れなく純潔できれいなわれわれの学生少年を社会主義施策よりも資本主義市場にさらに慣れた「市場の子どもたち」「世間知らずな子ども」であると中傷している。

これは、われわれの最高の尊厳を冒瀆する新たな悪行であり、わが革命の明るい未来に対する極悪非道な誹謗(ひぼう)中傷であって、これ以上そのまま放っておけない特大型の犯罪である。

この惑星のどこを見回しても、わが国でのように子どもたちを国の王様としてあがめる国は世界にない。

生まれれば赤ちゃん宮殿、育てば少年宮殿で才能の翼を広げてすくすくと育てているわれわれの子どもたちの幸運な生は、この世のどこにも比べられない白頭山の偉人たちの限りなく温かい愛と恩情の中で花開いている。

最も崇高な次代観、未来観を備えて雨雪にぬれてはならないこの国の全ての子どもを懐に抱いて育てた方が主席であり、自身は険路逆境の前線の道へたちながらも子どもたちをキャンプ場に手を振って見送った方が総書記であり、旧正月の朝に革命学院から訪れて学院生たちを未来の担い手に押し立てた方がほかならぬわれわれの敬愛する最高司令官である。

このような恩恵深い太陽の懐があって、峻厳(しゅんげん)な試練が折り重なり、国がベルトを締め付けなければならない困難な中でも学びの鐘の音はさらに大きく鳴り響き、少年団キャンプ旗は晴れ渡

る青い空にさらに高く翻ってきた。

子どもたちは国の未来であり、希望と勝利の象徴である。

逆賊一味の今回の悪態は、わが最高首脳部の明るい未来と新しい世代の洋々たる前途に驚いて仰天したあまりに上げた単なる悲鳴にすぎない。

古くから無知な人間の目には世界の万事が逆に見えると言った。

ばか、白痴、石頭の烙印（らくいん）を押された逆賊一味の目には、この世界が正しく見えるはずがない。

そうでなければ、どうしてわが民族の偉大な継承を「まね」であると卑下し、民族の前途を担っていく子どもたちをファシスト・ヒトラーの少年集合体と比べられようか。

ヒトラーと言えば、罪のない人類を災難と死の泥沼に追い込んだファッション狂であり、国と民族を破滅させた特級犯罪者であり、子どもたちに対する少しの愛情もない乾ききった暴君であった。

南朝鮮人民は既に、無慈悲な銃剣弾圧と反人民的悪政だけを選んで行っている天下の悪人である李明博逆徒を悪名高い「リトラー」であると認め、逆徒の面にヒトラーの口ひげを付け、ナチスの制服を着せて火刑式を断行して久しい。

舌は自らの首を切る刀になると言う。

われわれの最高の尊厳を中傷し、われわれの愛する子どもたちを冒瀆している李明博逆賊一味の新たな悪行のニュースが伝わると、わが軍隊の陸海空軍の将兵は込み上げる怒りを爆発させ、民族の天倫を汚す者、人民が慕い、世界が仰ぐ偉人を冒瀆する者を銃で断固決算することを一様に請願している。

前線の軍団、師団、連隊と縦深の戦略ロケット軍の将兵は、新たな悪行を演出している逆賊一味の本拠地である朝鮮日報社はソウル市中区北緯37度56分83秒、東経126度97分65秒の位置に、中央日報社はソウル市中区北緯37度33分45秒、東経126度58分14秒の位置に、東亜日報社はソウル市鐘路区北緯37度57分10秒、東経126度97分81秒の位置にあり、KBS、CBS、MBC、SBSの各放送局の座標も確定した状態にあるとし、懲罰を加える攻撃命令を下してくれと叫んでいる。

険悪に広がっている事態に関連して、朝鮮人民軍総参謀部は逆賊一味に次のような最終通告を送る。

わが革命武力は、最高司令官を命懸けで擁護し、最高司令官の思想と最高司令官があれほど大切にし、愛する人民と子どもたちを守る最高司令官の軍隊、人民の軍隊である。

われわれの最高の尊厳を中傷し、われわれの思想と制度、人民を害している特大型の挑発者の巣窟をそのまま放っておけないというのがわが軍隊の鉄の意志である。

それでは、わが軍隊の攻撃に全てをそのまま委ねるか、それとも遅まきながら謝罪して事態を收拾する道へ進むか。

自ら最後の選択をすべきであろう。

わが陸海空軍の将兵の込み上げる怒りは、これ以上抑えられなくなっている。

悪行の巣窟が一つ、二つ吹き飛んでも、その全責任は逆賊一味が負うことになるであろう。

もし、わが軍隊の怒りの爆発に無謀に挑戦するなら、われわれは既に布告した通り、われわれ式の無慈悲な聖戦で応えるであろう。

われわれは、全てのことに準備ができています。時間は無限に与えられるものではない。

● 朝鮮外務省スポークスマン談話「南の持続的な挑発は制裁雰囲気醸成のため」(6.9)

わが人民と進歩的人類の大きな関心と祝福の中で朝鮮少年団創立66周年祝賀行事が意義深く行われた。

史上最も盛大に行われた今回の朝鮮少年団員の大祭典は、未来の主人公である子どもたちを国の王様に押し立て、彼らにこの世で一番立派な社会主義強盛国家をつくって譲り渡そうとする敬愛する金正恩同志の崇高な次代愛の最高の精華である。

子どもたちを愛して大切にするのは人類の普遍的な感情であるので、世界の人々も少年団員の明るい朗らかな笑いの花が満開したわが祖国の現実に驚嘆を禁じ得ず、強盛朝鮮の輝かしい未来に対する憧憬（しょうけい）と期待を表している。

しかし、唯一、李明博逆賊一味だけは獣も顔を赤らめる悪態を引き続きついでおり、その度合いは粗暴な上、限界ラインを超えた。

先軍朝鮮の強大な軍事力と一心団結の威力に恐れをなして精神錯乱症にかかった逆賊一味が、太陽に従って未来へひた走っているわれわれの少年団員の力強い足音に完全に正気を失って狂ったのである。

臨終にひんした李明博逆賊一味が終焉（しゅうえん）を告げるのは時間の問題であるが、狂犬のように最後のあがきをする逆賊一味が朝鮮半島はもちろん、地域の平和と安定を害するおびただしい災難をもたらしかねないというところに問題の重大さと深刻さがある。

以前からも李明博逆賊一味は、自分らの反共和国対決政策を正当化して周辺諸国に認めてもらうために周期的にわざと対決を引き起こし、情勢を絶えず激化させてきた。

逆賊一味は政権に就くや、民族の和解と協力で沸き立っていた6. 15統一時代を否定し、北南関係を最悪の状態に追い込む反共和国対決騒動を大々的に起こした。そして、いわゆる「急変事態」をうんぬんし、対話を通じたわれわれとの関係改善ではなく、自分らの反共和国対決政策を後押ししてほしいと主人のズボンのすそをつかんで哀願した。

同族対決を生存手段とする逆賊一味にとって、朝鮮半島の情勢緩和と対話の雰囲気醸成は死刑宣告にほかならなかった。従って、逆賊一味は朝鮮半島に情勢緩和と対話の雰囲気が醸成される兆しが現れるときにはとんでもない前提条件を持ち出して対話の再開を阻むだけでは満足せず、チョンアン（天安）事件のような特大型の謀略劇まででっち上げ、戦争の雰囲気を鼓吹した。

同族対決は事大、売国へとつながるものなので、李明博逆賊一味はわれわれとの対決のためなら南朝鮮を米国のアジア太平洋支配戦略実現のいけにえにすることもためらわなかった。

最近になってはそれもうまく通用なくなると、われわれに対する悪辣（あくらつ）な政治的挑発を続けて行っている。

民族の大国喪に服したわが人民の痛い胸を刃物で切りつけ、不世出の偉人たちをあえて中傷、冒瀆（ぼうとく）する天人共に怒る大罪を犯した李明博逆賊一味は、太陽節祝賀行事と6. 6節祝賀行事などわれわれの神聖な祝日行事を追って悪辣にそしる挑発に明け暮れている。

このように、逆賊一味がわれわれに持続的な挑発を仕掛けて情勢を激化させるところには凶悪な企図が潜んでいる。

われわれをあくまでも刺激し、現在計画してもいない核実験や延坪島砲撃戦のような強硬対応措置を生じさせ、あたかもわれわれが「好戦的」であるかのように際立たせることで、われわれと周辺諸国との関係を緊張させ、反共和国制裁圧迫の雰囲気を醸成しようというものである。

李明博逆賊一味の対決政策と事大・売国的な哀願外交の結果として朝鮮半島は諸大国の武力が対峙（たいじ）し合う軍事的対決の場に、地域戦争の導火線になった。そして、南朝鮮は米国の戦争装備を備蓄する軍需品貯蔵庫に、米国の狂牛病牛肉のようなごみを処理する掃きだめになってしまった。

民族の敵、売国・反民族の元凶である逆賊の群れをそのまま放っておいては、朝鮮半島の平和と安定も、民族の和解と協力も遂げられないことを悟った南朝鮮の人民が立ち上がると、李明博逆賊一味は「従北勢力粛清」の前代未聞のファッショ的な弾圧旋風まで巻き起こしている。

このような逆賊の群れが存在するのは朝鮮民族の恥であり、われわれの時代の悲劇である。

朝鮮半島の情勢緩和と地域の平和と安定のために李明博逆賊一味が一日も早くなくなることを願う方向に国際社会の民心が流れているのはまさにこのためである。

逆賊一味がこれ以上のさばることができず、おとなしく退くようにするのは、地域の平和と安定を願う全ての国の利害関係にも合致する道である。

もし、南朝鮮を自分らの利己目的に少しでもさらに利用するために逆賊一味の危険で無謀な挑発策動を引き続きあおり、目をつぶる周辺国があるなら、その結果に対する責任を絶対に逃れられないであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答 (6. 17)

米国務長官の「民生問題」発言は偽善

最近、米国の当局者が口を開くたびにわれわれの「人権問題」「民生問題」をうんぬんして無分別に振る舞っているが、その代表的な人物がまさにヒラリー（クリントン）国務長官である。

わが共和国を長期的に敵視し、脅かしてわれわれにそれに対処した国防力を備えざるを得なくした米国の、今になってわれわれに「民生」を優先視せよと言うのは病気を与えて薬を与えるような憎むべき偽善である。

国と民族の尊厳と最高の利益を守り、わが祖国をどんな侵略勢力も手出しできない自衛的軍事強国に打ち立てたのは、金正日総書記の不滅の歴史的功績であり、社会主義強盛国家の建設を推し進められるようにする万年の土台となる。

われわれの敬愛する金正恩同志は既に、わが人民を世界にうらやむものなく豊かに暮らせるようにす

るわれわれ式の発展目標と戦略、戦術を立て、経済建設と人民生活の向上のためのわが人民の総進軍を賢明に導いている。

世界が目撃したわが人民の昨年 12 月の涙と今年 4 月の歓呼の声、6. 6 節（朝鮮少年団創立記念日）の感激の海は、「人権」だの、「民生」だのとわれわれの内政に干渉し、われわれの一心団結をどうにかしようとする米国の企図がどれほど愚かで笑止千万なものであるのかをはっきりと示している。

米国が、言葉ではわれわれに対して敵意がないと言いながらも、このように行動では引き続き敵視する限り、国と民族の平和と安全を保障するためのわれわれの核抑止力は引き続き強化されるであろう。

われわれの軍需工業も今は、人民がベルトを締め上げないようにしながらも核抑止力を自前で絶え間なく強化し、発展させられる土台と能力を備えた。

民生問題、生存権問題が真に深刻に提起される国は、人口の 99% が 1% に搾取される米国である。

ヒラリーとしては、自分の民主党政府の再執権を霧散させかねないほど深刻になった米国の経済難と失業大群の救済に神経を使う方がむしろ分相応であろう。

わが人民自身が選択したわれわれ式の社会主義制度が米国式の資本主義制度よりもはるかに限りなく繁栄するという事は時間が証明するであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答 (6. 18)

米の南朝鮮軍備増強は停戦協定違反

去る 12 日、南朝鮮駐屯米軍司令官はいわゆる「北朝鮮の脅威」を鼓吹して米軍の攻撃ヘリ大隊を追加配置し、ミサイル防衛 (MD) システムの能力の強化を主張し、米軍部はその実現に優先権を付与すると公言した。

13 日、米国防総省は米国、日本、南朝鮮の初の 3 者合同軍事演習を 21 日から朝鮮西海と朝鮮南海で行い、それに米原子力空母まで投入することになると発表した。

14 日にはワシントンで、南朝鮮駐屯米軍武力の増強を促し、南朝鮮を米国のアジア支配戦略実現の前哨基地にするための主人と手先の軍事的謀議が行われた。

これは、停戦協定に対する乱暴な違反であり、われわれに対する公然たる挑発である。

米国は、口を開けば誰それの「挑発」について騒ぐが、諸般の事実は米国こそわれわれを敵視して絶え間ない軍事的挑発で緊張激化をもたらす張本人であることを如実に示している。

朝鮮半島情勢を意図的に緊張させている米国の下心は、経済建設と人民生活の向上のためのわれわれの総進軍に障害をつくり、南朝鮮を自分らの侵略戦争政策の手先に徹底的に隷属させようとするところにある。

朝鮮半島と地域の平和と安全を脅かす南朝鮮に対する米国の武力増強の企図は、われわれだけでなく東北アジア諸国を狙った地域戦争の序曲である。

われわれは、エスカレートする米国の侵略戦争準備策動を高度の警戒心を持って注視しており、国と民族の自主権と尊厳を守るための自衛的国防力をあらゆる面から強化していくであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマン談話、南朝鮮駐屯米軍の国旗への実弾射撃を非難 (6. 24)

米国がわが共和国の自主権と尊厳をじゅうりんする重大な挑発行為を再び行った。22 日、南朝鮮駐屯米帝侵略軍は李明博逆賊一味と結託して非武装地帯の南方で史上最大規模の合同実弾射撃演習を行い、あえてわが共和国旗を標的にする無分別な妄動を働いた。

宣戦布告もなしに主権国家の国旗を目標に実弾射撃をすることこそ、極めて重大な軍事的挑発であり、政治的挑発である。

米国がともすれば誰それの「挑発」をうんぬんするが、今回、わが共和国旗を狙った実弾射撃を通じて誰が真の挑発者であるのかが明白になった。

わが国の自主権と民族の尊厳を象徴する共和国旗に向かって実際に射撃を加えたことこそ、われわれに対する敵視政策の最も集中的な表れとなる。

今回の実弾射撃は、米国の当局者がわれわれに対する敵意がないと甘言を並べ、2. 29 朝米合意でわが共和国を敵視しないと公約したことが完全なうそであったことをあらためて明白に実証した。

最近になって米国は、各方面から手段と方法を総動員して対朝鮮敵視政策をさらに悪辣 (あくらつ) に実施しており、その度合いは限界線を超えている。

米国の敵視政策の根底には、わが共和国を抹殺して全朝鮮半島を占領しようとする侵略的野望が潜んでおり、それは朝鮮戦争を挑発した 62 年前も、こんにちも少しも変わっていないことを示している。

しかし、軍事技術的優位はもはや米国の独占物ではなく、米国が原爆でわれわれを威嚇、恐喝していた時代は永遠に過ぎ去った。

金正日総書記が卓越した先軍政治でいかなる侵略勢力も手出しできない強力な核抑止力を築いたので、わが人民は確信に満ちて経済強国の建設を力強く推し進めている。

われわれの自衛的な核抑止力こそ、朝鮮半島で戦争を防止し、平和と安定を頼もしく守る万能の宝剣である。

世界最大の核保有国である米国の敵視政策が続く限り、われわれは自衛的な核抑止力をさらに強化するであろう。

日を追って増大する米国の敵視政策は結局、米国が維持しようとのたうつ核兵器独占システムに自らの手で大きな穴を開ける結果を招くことになるであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答 (6. 25) 米國務省の「人身売買報告書」を非難

最近、米國務省が「人身売買報告書」の発表なるものを通じていつも繰り返す虚偽・捏造（ねつぞう）資料をまとめ、またしてもわが国を悪辣（あくらつ）に中傷する政治的挑発を働いた。

誰もが平等で真の民主的権利と自由、自主的な人間としての真の生と尊厳が法的に保証されている人間中心のわれわれの社会では、そもそも「人身売買」のようなものが存在しない。

わが共和国の領域外で人身売買行為が行われているなら、それは米国が「北朝鮮人権法」に基づいてばらまく幾らかの金を受け取ろうとわれわれの国境付近を走り回り、不法越境者を「政治亡命客」にすり替えたり、売り渡したりする南朝鮮と日本の不純な敵対勢力による政治的謀略の産物である。

もともと、人身売買というものは人間の尊厳と価値が金によって評価され、金で人を売り買いする資本主義社会がもたらした悪弊である。この世界で起きている人身売買行為の元凶がほかならぬ米国であることは誰もがよく知る事実である。

人身売買をはじめあらゆる不正、腐敗が横行する人権じゅうりんの王国である米国が誰それの「人身売買」状況を口にする事自体が理にかなわない。

他人を中傷することで自らのあらを隠そうとするのは幼稚な行動である。その上、自分らの言うこととおとなしく聞かない国だけを選んで悪意に満ちて中傷するのは、米国の常とうの二重基準劇であり、政治謀略である。

米国が人身売買問題でわれわれに言い掛かりをつけたのは、対朝鮮敵視政策の代表的な表れであって、わが人民が選択した自主的な社会主義制度を孤立させ、圧殺しようとする米国の敵対的本性は少しも変わっていないことを実証するだけである。

米国が時代錯誤の対朝鮮敵視政策に引き続きしがみつくと、われわれはそれに対処せざるを得ないし、結局、われわれの自衛的核抑止力をさらに増大させる結果だけを招くことになるであろう。

● 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答 (6. 28) 沖ノ鳥島は日本の大陸棚延長の根拠になり得ない

最近、日本が行く先々で破廉恥な領土膨張野望をさらけ出して横車を押し、東アジア地域の不安定と緊張の激化を引き起こしている。

このほど国連の大陸棚限界委員会が日本の大陸棚延長の申請に同意しないと発表した勧告を我田引水で歪曲（わいきょく）して沖ノ鳥島（東京都）が島として認められたと主張するのは、日本の領土膨張野望を示す端的な実例である。

沖ノ鳥島は、日本の領土から数百キロも離れた太平洋上に位置する単なる岩にすぎないもので、国連海洋法条約に定められた島の範疇（はんちゅう）に属さず、従ってそれ自体の経済水域を持たず、大陸棚延長の根拠となり得ない。

にもかかわらず、沖ノ鳥島を島のように見せて、その周辺の海底を独占しようというのが厚顔無恥な日本の下心である。

朝鮮民族の神聖な領土である独島（日本名・竹島）を自国の領土と言い張って周辺諸国の合法的な領土を狙う日本の領土膨張野望は、人類共同の富である深海底まで強奪しようと狂奔する域に至った。

外部勢力を後ろ盾にして軍国化を進め、領土膨張策動をエスカレートさせている日本の現実、「大東亜共栄圏」の侵略的妄想で人類に計り知れない苦痛と災難を与えた日本軍国主義の復活を予告している。

国際社会は、世界の平和と人類の福利のために日本の領土膨張野望に当然の注意を払い、これを徹底的に排撃すべきであろう。

◇ 朝鮮半島日誌 (2012. 4. 11～6. 29)

【4月】

- 4. 11 朝鮮労働党第4回代表者会
南朝鮮第19代国会議員選挙
各国の専門家、記者が人工衛星管制総合指揮所参観
- 4. 13 朝鮮最高人民会議第12期第5回会議
朝鮮が人工衛星「光明星3」号を打ち上げるも失敗
- 4. 14 朝鮮の文化省とベトナムの文化・スポーツ・観光省間の2012-2014年度文化交流計画書調印
- 4. 15 金日成主席生誕100周年
朝鮮人民軍閲兵式にて金正恩第1書記が祝賀演説
- 4. 16 李明博大統領が第88回ラジオインターネット演説で朝鮮を誹謗中傷
国連安全保障理事会議長声明発表
- 4. 17 朝鮮外務省が声明「2. 29合意にこれ以上、拘束されない」
朝露林業分科委員会議定書調印
- 4. 18 朝鮮人民軍最高司令部スポークスマン声明「南の挑発原点に特別行動措置」
- 4. 19 朝鮮宇宙空間技術委員会スポークスマン声明、衛星打ち上げ自主権行使の立場表明
李明博大統領が国防科学院を訪問、新型巡航ミサイルの映像を公開
- 4. 20 南朝鮮軍が江原道の最前線地域で多連装ロケット砲の火力示範訓練実施
李明博大統領が統一教育院で特別講演。またもや朝鮮を誹謗中傷
- 4. 21 朝鮮労働党と中国共産党が戦略対話
- 4. 22 朝鮮外務省スポークスマン声明「朝鮮半島で何かが起きれば李明博逆徒に全責任」
朝鮮労働党の金永日書記が中国の戴秉国国务委員と会見
中露海軍が黄海で過去最大規模の合同軍事演習（～27日）
- 4. 23 朝鮮労働党の金永日書記が、中国共産党の胡錦濤総書記を表敬訪問
朝鮮人民軍最高司令部特別作戦行動グループ通告
朝鮮外務省スポークスマン談話、人工衛星打ち上げに対する米国の二重基準適用を非難
朝鮮内閣拡大総会
- 4. 25 米国とフィリピンが南シナ海で合同軍事演習
- 4. 26 インドが国産製リモート・センシング・レーダー画像衛星「RISAT-1」を打ち上げ
- 4. 27 朝中両国企業の幅広い協力を促進するための、「朝鮮中国商工会議所」が平壤に設立
ソウルで米国産牛肉輸入反対のキャンドルデモ
- 4. 30 日米首脳会談

【5月】

- 5. 1 南朝鮮合同参謀本部が軍事演習（～3日）、最高の対応態勢令「珍島犬1」を宣布
日本政府が米ニュージャージー州パラセイズ・パーク市の従軍慰安婦の碑の撤去を市に要求
- 5. 2 安保理の朝鮮制裁委員会が制裁対象企業を2社追加し計11社へ
- 5. 3 核拡散防止条約再検討会議準備委員会で国連常任理事国が「共同声明」を発表
朝鮮訪問中のラオス国民議会のパーニー・ヤトトゥ議長と最高人民会議の崔泰福議長が会談
第4回米中戦略経済対話（～5日）
- 5. 4 最高人民会議の金永南委員長が訪朝中のラオス議会代表団と会見
- 5. 5 日帝植民地時代の慰安婦に関する資料などを集めた「戦争と女性の人権博物館」がソウルに開館
- 5. 6 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮中央通信の質問に回答
：国連安全保障理事会常任理事国の「共同声明」を非難
中国がキャリアロケット「長征2号丁」を使って人工衛星「天絵1号02星」を打ち上げ
- 5. 7 史上最大の米「韓」合同空軍演習「マックスサンダー」開始（～25日）
ロシアのウラジーミル・プーチン首相が、大統領に就任

5. 8 金正恩第1書記の国土管理に関する4.27談話が国土管理総動員運動熱誠者大会参加者へ伝達
中国の国際交流団体会長の李肇星前外相が金永南最高人民会議委員長と会談
5. 9 朴宜春外相がエジプトで開かれた非同盟諸国外相会議で演説、国連安保理を非難
ロシアで「対ドイツ戦勝記念日」を祝い盛大な軍事パレード
- 5.10 朝鮮と中国の満浦-集安国境橋の共同建設と管理・保護に関する協定が平壤で調印
- 5.11 シンガポールを訪問中の金永南最高人民会議委員長がトニー・タン大統領と会談
ラオスを訪問中の朝鮮人民軍の李英鎬総参謀長がチュンマリー・サイニャーソン主席と会談
- 5.12 米国防総省が「SM3ブロック1B」迎撃ミサイルの発射実験を実施し成功したと発表
南で「麗水世界博覧会」が開幕
- 5.13 第5回日中「韓」サミット(北京~14日)、日中韓投資協定調印
- 5.14 李明博大統領がミャンマーの首都ネピドーを訪問しテイン・セイン大統領と会談
第15回平壤春季国際商品展覧会が開幕
- 5.15 金永南最高人民会議常任委員長がジャカルタでインドネシアのユドヨノ大統領と会談
朝鮮外務省スポークスマン「日本反動層の幼稚な共和国拉致騒動を糾弾」
南の与党セヌリ党が全党大会を開き朴槿恵氏系の黄祐呂議員を新代表に選出
- 5.16 米下院が「北朝鮮人権法」を5年間延長する内容の「再承認法案」を満場一致で可決
ベトナムの通信衛星VINASAT-2が日本の衛星JCSAT-13とともに打ち上げられる
- 5.17 米「韓」空軍 最大規模の戦闘訓練「マックスサンダー」公開
- 5.18 主要8カ国首脳会議(米キャンプデービッド~19日)
南朝鮮の「アリラン3号」と日本の人工衛星3基を積んだH2Aロケットが種子島宇宙センター
から打ち上げられる
- 5.20 日米外相がアフガン問題と朝鮮問題を協議(米シカゴ)
グリーン・デービス米務省朝鮮担当特別代表が中・「韓」・日歴訪(~25日)
- 5.21 日米「韓」6ヶ国協議首席代表が会談(ソウル)
- 5.22 朝鮮外務省スポークスマン「核実験のような軍事的措置は予定していない」
デービス米務省朝鮮担当特別代表が中国の武大偉朝鮮半島問題特別代表らと会談(北京)
新宿「ニコンサロン」で6月末に予定されていた「慰安婦写真展」をニコン側が中止を表明
- 5.23 金永南最高人民会議委員長がスウェーデン社会民主党国会議員代表団と面談
朝鮮人民軍楽団がロシアのハバロフスクで開幕した第1回極東国際軍楽祭典で公演
- 5.24 デービス米務省朝鮮担当特別代表が山口壯外務副大臣、佐々江賢一郎外務事務次官と会談。
玄葉光一郎外相が、来日中の中国の李肇星前外相と会談。
南朝鮮の大法院(最高裁に相当)が日帝植民地時代に朝鮮人を強制徴用した日本企業に損害賠償
責任を認める判決を下す。
- 5.25 平安南道人民委員会の安極太委員長を団長とする親善代表団がロシアのアムール州を訪問。
- 5.28 徐萬述朝鮮総聯前議長の遺骨が平壤の愛国烈士陵に
- 5.29 朝鮮外務省スポークスマン談話、米国の「2011年人権報告書」を批判
朝中が商工行政の協力覚書を平壤で調印
- 5.31 朝鮮鉄道省代表団がアルゼバイジャンで行われる鉄道国際協力機構閣僚会議へ

【6月】

6. 2 南の金寛鎮国防長官、米国のパネッタ国防長官、日本の渡辺周防衛副大臣がシンガポールで会談
6. 3 南の与党であるセヌリ党の議員11名が「北朝鮮人権法」を国会に発議
6. 4 朝鮮人民軍総参謀部が李明博大統領に公開通牒状「自ら最後の選択をすべきである」
6. 5 訪朝中の東南アジア諸国連合の議長国であるカンボジアのホー・ナムホン副首相兼外相が金永南
最高人民会議委員長、朴宜春外相と個別に会談。
北京を訪問中のロシアのプーチン大統領が、中国の胡錦濤国家主席と会談。
金永日書記を団長とする朝鮮労働党代表団がラオス、ベトナム、ミャンマーを歴訪
デービス米朝鮮問題特別代表がロシア、ベルギー、フランスを歴訪。(~9日)
デービス米朝鮮問題特別代表がロシアのボグロフ外務次官らと会談。
6. 6 朝鮮少年団創立66周年記念全国連合団体大会で金正恩第1委員長が演説。
第12回上海協力機構首脳会談(~7日)中ロ共同声明発表、6者会談の早期再開を明記

- 米国AP通信社のジョン・ダニスゼウスキー副社長と一行が平壤に到着
日米豪が九州以東の海域で合同軍事演習（～8日）
6. 7 朝鮮労働党代表団とラオス人民革命党代表団がラオスの首都ヴィエンチャンで会談
朝鮮労働党とラオス革命党の間で協調及び代表団の交流に関する合意書が調印
最高人民会議の崔泰福議長がドイツ社会民主党のヨハネス・プフルーク連邦議会一行と会見
 6. 8 ロバート・キング米朝鮮人権大使が、松原拉致問題担当相、杉山外務省アジア大洋州局長と会談
 6. 9 朝鮮外務省スポークスマン談話、持続的な挑発で情勢を激化させている李政権を糾弾
ロバート・キング米朝鮮人権大使が、南の林聖男外交通商省平和交渉本部長らと会談
南の野党である民主統合党の臨時全国代議員大会において李ヘチャン議員が代表委員に選出
朝鮮赤十字社代表団がイランへ
 6. 11 朝鮮労働党代表団とベトナム共産党代表団がハノイで会談
 6. 12 平壤国際保険討論会が開幕
 6. 14 ワシントンで米韓外務・国防閣僚協議（2+2）
 6. 15 6. 15 北南共同宣言発表 12周年
 6. 16 中国が有人宇宙船「神舟9号」打ち上げに成功。「天宮1号」と中国初の有人ドッキング。
米国のバスケットボール親交代表団が訪朝（～20日）
 6. 17 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答「米国務長官の『民生問題』発言は偽善」
 6. 18 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答「米の南朝鮮軍備増強は停戦協定違反」
第7回G20サミット
 6. 20 米上院で対北食糧支援禁止修正法案が可決
ニューヨーク近郊に2つ目の「従軍慰安婦の碑」が建てられる。
 6. 21 米日韓が朝鮮半島南方沖で合同海上訓練実施（～22日）
南の海軍と海兵隊が西海に位置する安眠島の海岸で合同上陸訓練実施（～27日）
 6. 23 米韓海軍が西海で合同演習（～25日）
弓錫雄外務次官を団長とする朝鮮外務省代表団がロシアへ
 6. 24 朝鮮外務省スポークスマン談話「共和国を敵対視しなというのはまったくの嘘」
 6. 25 朝鮮外務省スポークスマンが朝鮮通信の質問に回答「人身売買など存在しない」
 6. 26 中国外務省報道官「黄金坪、羅先『二つの（中朝）経済区』事業は着実に進んでいる」と言明
 6. 28 朝鮮外務省スポークスマン、「沖ノ鳥島は日本の大陸棚延長の根拠になり得ない」
 6. 29 日「韓」軍事情報包括保護協定、南が土壇場で日本との署名を保留。